

前二條ノ罪ヲ犯シタル時ハ各一等ヲ加フ
他人ヨリ給金ヲ受ケテ幼者ヲ鞠育シ老者疾病者ヲ預リテ看護スヘキ者カ前二條ノ如ク其預リタル幼者老疾者ヲ遺棄シタルハ其罪情實ニ重キヲ以テ前二條ノ刑ニ一等ヲ加ヘテ處分ス

第三百三十九條 幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ癱疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス
幼者老疾者ヲ遺棄シテ之ノカ爲メニ其幼者老疾者ヲ廢疾ニ致シタル者ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

第三百四十條 自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地内ニ遺棄セラレタル幼者老疾者アルヲ知テ之ヲ扶助セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス
若シ疾病ニ罹リ昏倒スル者アルヲ知テ扶助セス又ハ申告セサル者亦同シ
本條ハ幼者老疾者ヲ遺棄スルノ罪ニハ非ズテ之ニ關係シタル專柄ナルヲ以テ茲

ノ如ク他人ノ地ヲ看守スヘキ者其地内ニ借地人番人支配人等ニシテ若シ之ヲ扶助セス知ラハ之ヲ扶助スルカ又ハ官署ニ申告スル以下ノ重禁錮ニ處ス
○右等ノ者其地内ニ疾病ニ罹リ倒レ臥シタル者アルヲ知テ之ヲ介抱セス又ハ官署ニ申告セサルモ右ト同罪ナリ

第十節 幼者ヲ略取誘拐スル罪
略取トハ強テ人ヲ奪ハ人ヲ欺キ騙シテ誘引シ去ルコトナリ

第三百四十一條 十二歳ニ滿サル幼者ヲ畧取シ又ハ誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
二十歳ニ滿サル幼者ヲ奪ヒ取リ又ハ欺テ誘引シ去リ之ヲ自己ノ家ニ藏匿スルカ又ハ他人ニ渡シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十二條 十二歳以上二十歳ニ滿サル幼者ヲ畧取シ

懲役ニ處ス若シ強姦シタル者ハ重懲役ニ處ス十二歳ニ滿

奉情未タ動カス自ラ好シテ姦淫セシムル者ニ非サルヲ以テ
縱令ヒ暴行脅迫ヲ用ヒスシテ姦淫シタル者ニ輕懲役ニ處
ス若シ暴行脅迫ヲ用ヒ又ハ藥酒等ヲ用ヒテ強姦シタル者ハ
重懲役ニ處スルナリ

第三百五十條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬

ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス猥褻姦淫モ略取誘拐ノ如ク之ヲ世
ノ榮譽ヲ害スルニヨリ他ヨリ之ヲ摘發スルコトヲ許サス必ス
本人又ハ親屬ノ告訴スルヲ待テ其罪ヲ論スルナリ

第三百五十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死

傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處
斷ス但強姦ニ因テ癩篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ

死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス其ノ人ヲ死傷ニ致シタル者

毆打創傷ノ各本條ニ比照シ重キ方ニ從テ刑ヲ科ス但シ強
姦ヲ行ヒ因テ其婦女ヲ癩篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處
ス死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第三百五十二條 十六歳ニ滿サル男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒

合シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二回以上

二十回以下ノ罰金ヲ附加ス十六歳ニ滿サル男女ハ恣操未タ
確定セス淫風ニ誘キ易シ因テ之
ニ淫行ヲ勸メテ其取リ持媒介ヲ爲シタル者ハ風俗ヲ亂ルヲ
以テ一月以上六月以下ノ重禁錮ト二回以上二十回以下ノ罰
金ニ處スルナリ

第三百五十三條 有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上二年以

下ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者亦同シ

此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本夫先ニ姦通
ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ効ナシ有夫ノ婦人他ノ男子ト姦通

ナラス婦女ハ懷孕ノ事アルヲ以テ夫家ノ血統ヲ紊ラスノ恐
レアリ因テ之ヲ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其姦通シ
タル相手方ノ榮譽ヲ害シ且ツ他人ノ摘發ヲ許ルニヒハ世ノ奇
ヲ喜ヒ爭テ他案ノ内事ヲ傳發シ反テ風俗ヲ亂セルノ恐アリ但
以テ其本夫ヨリ告訴スルニ非サレハ之ヲ罰セサルナリ

本夫先ニ其婦ヲ容ルシテ姦通セシメタル者ハ告訴スルコトヲ得サルナリ

第三百五十四條 配偶者アル者重テ婚姻ヲ爲タル時ハ六月

月以十二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰

金ヲ附加ス 妻アル男子夫アル婦人重テ他ノ婚姻ヲ爲シ

十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罰 誣告ハ無實ノ惡事ヲ官ニ

惡事ヲ公ニ流布スルコトニテ孰レモ人ノ名譽ヲ害スル犯

第三百五十五條 不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第二

百二十條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス 無實ノ事

ヲ誣ヒ刑事檢事又ハ警察官ニ告訴告發ヲ爲シタル者ハ第二

百二十條ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

輕罪ヲ以テ誣告シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處

シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 誣告ニ處シ十圓以

下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十六條 誣告ヲ爲スト雖モ被告人ノ推問ヲ始メサ

ル前ニ於テ誣告者自首シタル時ハ本刑ヲ免ス 誣告ヲ爲ス

其誣告セラレタル者ノ糾問ヲ始メサル前ニ誣告者自首シタ

第三百五十七條 誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラレタル時ハ

第二百三十一條第二百二十二條ニ記載シタル例ニ照シテ

處斷ス 誣告ヲ爲シタルニ因テ其誣告セラレタル者處刑ヲ受

ニ照シテ誣告者其誣告シタル罪ニ反坐ス

第三百五十八條 惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ

事實ノ有無ヲ問ハス左ノ例ニ照シテ處斷ス

一公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十一日以上三月

以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加

ス

二書類畫圖ヲ公布シ又ハ維劇偶像ヲ作為シテ人ヲ誹毀シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上

五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス人ノ惡事又ハ惡事ト云フ迄ニ

一第ニ誹毀シタル者ハ實ニ其事アルト否トハ問ハス本條第一ノ第二ノ如ク處分スルナリ○第一衆人ノ聽聞ヲ許ル公ケノ演說ニテ人ヲ誹毀シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス○第二著書新聞紙雜誌等公ケニ流布スヘキ書類又ハ繪畫紙ノ類ヲ發兌シテ人ヲ誹毀シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十九條

死者ヲ誹毀シタル者ハ誣罔ニ出タルニ非

サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルヲ得ス

已ニ死シタル

ル者ハ事實ナキコトヲ作リテ誹毀シタル時ノミ前條ノ例ニ依テ處斷シ實ニアルコトヲ公布シタル者ハ罪トナサス

第三百六十條

醫師藥商穩婆又ハ代言人辯護人代書人若ク

ハ神官僧侶其身分職業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ因リ知得タル陰私ヲ漏告シタル者ハ誹毀ヲ以テ論シ十一日以上

三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附

加ス但裁判所ノ呼出ヲ受ケテ事實ヲ陳述スルハ此限ニ有

ラス醫師藥商穩婆又ハ代言人辯護人代書人若クハ神官僧侶

陰事ヲ知リ得テ之ヲ他ニ漏告シタル者ハ誹毀ヲ以テ論ス

ルナリ例ヘハ醫師藥商穩婆又ハ代言人辯護人代書人若クハ神官僧侶

他人ノ秘密ニキテ惡疾アルコトヲ知リテ之ヲ漏告シタル者ハ誹毀ヲ以テ論ス

倫人ノ子ヲ擧ゲテ秘密スルコトヲ知リテ之ヲ漏告シタル者ハ誹毀ヲ以テ論ス

代言人辯護人代書人其委託セラレタル人ノ陰事ヲ聞

キ知リ神官僧侶祈禱ヲ告ケタル人ハ信ヲ破リ本ノ陰事ヲ聞

間キ知リテ之ヲ故ニ誹毀シテ論シタルハ信ヲ破リ本ノ陰事ヲ聞

禁錮三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス但一日以上三月以下ノ重

實ヲ陳述シタル者ハ罪ト爲サ、ルナリ

第三百六十一條

此節ニ記載シタル誹毀ノ罪ハ被害者又ハ

死者ノ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ズ誹毀ハ其榮譽ヲ害スル

サレハ知ル可ラサルヲ以テ本人ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第十三節 祖父母父母ニ對スル罪祖父母ハ人ノ最

ハ之ニ對スルノ罪ハ凡人ニ對スル罪ヨリ重クモ尊スヘキ者ナリ

第三百六十二條 子孫其祖父母父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ

死刑ニ處ス

其自殺ニ關スル罪ハ凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ祖父母

シタル者ト雖モ死刑ヨリ重キ刑ハアラサルヲ以テ矢張り死

第三百六十三條 子孫其祖父母父母ニ對シ毆打創傷ノ罪其

他監禁脅迫遺棄誣告誹毀ノ罪ヲ犯シタル者ハ各本條ニ記

載シタル凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ但癡疾ニ致シタル者

ハ有期徒刑ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死

ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス父母祖父母ニ對シ毆打創傷逮捕

シタル者ハ皆本刑ニ二等ヲ加フ若シ之カ爲メニ祖父母父母

第三百六十四條 子孫其祖父母父母ニ對シ衣食ヲ供給セス

其他必要ナル奉養ヲ缺キタル者ハ十五日以上六月以下ノ

重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ人ノ子

者其父母ニ衣服食物ヲ與ハス其他必要ナル奉養(疾病ノ時

例ニヨリ其通當ノ疾病ハ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ前條ノ致シタル者ハ無期徒刑ニ處シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第三百六十五條 祖父母父母ニ對シタル殺傷ノ罪ハ特別ノ宥恕及ヒ不論罪ノ例ヲ用フルヲ得ス但其犯ス時知ラサル者ハ此限ニ在ラス

祖父母父母ニ對シテ殺傷ノ罪ヲ犯シタル者ハ此限ニ在ラス 祖父母父母ニ對シテ殺傷ノ罪ヲ犯シタル者ハ此限ニ在ラス

第二章 財産ニ對スル罪 此一章ハ人ノ所有財産ニ對スル罪ナリ

第一節 竊盜ノ罪 第三百六十六條 人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

他人ノ所有スル物品ヲ竊ニ盜ニ取ルル者ハ此限ニ在ラス

第三百六十七條 水火震災其他ノ變ニ乘シテ竊盜ヲ犯シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

洪水火災地震其他ノ變アリテ人ノ倉庫狼狽シテ自己ノ所有物ニ注意スル違ナキニ乘シテ竊盜ヲ行フタル者ハ其罪情重キヲ以テ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百六十八條 門戸牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ亦前條ニ同シ

門戸牆壁ヲ踰越シ若クハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百六十九條 二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

二人以上相伴フテ前三條ノ竊盜罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ即チ第三條ノ竊盜罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

犯シタル者ハ三月十五日以上五年以下ノ重禁錮ニ處シテ三月十五日以上六年三月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十條

兇器ヲ携帯シテ人ノ住居シタル邸宅ニ入り

竊盜ヲ犯シタル者ハ輕懲役ニ處ス銃砲刀劍等ヲ持テ人ノ住居

ヲ入ル邸宅ニ入りテ竊盜ヲ行フ者ハ其禍ヒ測ル可ラサルヲ以テ之ヲ重罪ト爲シ輕懲役ニ處ス

第三百七十一條

自己ノ所有物ト雖モ曲物トシテ他人ニ交

付シ又ハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタル時之ヲ竊取

シタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス元來盜上ハ他人ノ所有物ヲ盜

取ルヲ謂フテ自己ノ所有物ヲ盜取ルニテハ他人ノ看守シタル

物又ハ官署ノ命令ニ因リテ他人ノ看守シタル物ハ自己ノ所有物

トシテ竊取シタルモ己レ擅ニ之ヲ取リ用ユルヲ能ハサルハ刑ニ處スルナリ

第三百七十二條

田野ニ於テ穀類菜菓其他ノ產物ヲ竊取シ

タル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス田畑野邊ニ生

業樹菓等ハ元ト人ノ看守セサル者ナルヲ以テ之ヲ竊取シタル者ハ通常ノ竊盜ヨリ其罪遙ニ輕シ故ニ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十三條

山林ニ於テ竹木礦物ヲ竊取シ又ハ川澤池

沼湖海ニ於テ人ノ生養シ若クハ營業ニ關スル產物ヲ竊取

シタル者ハ亦前條ニ同シ山林ニ在ル竹木及ヒ金銀銅鐵石炭

ニ於テ遺根海苔魚鳥ノ類人ノ之ヲ生養シ又ハ人ノ營業ノ爲メ

ニ培養スル物ヲ竊取シタル者ハ前條ト同シク一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十四條

牧場ニ於テ牧畜ノ獸類ヲ竊取シタル者ハ

二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス牧場ニ飼ヒ置タル牛馬

以下ノ重禁錮ニ處ス其情稍ヤ重シ故ニ之ヲ二月以上二年

第三百七十五條

此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未

夕遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス 第三百七十一條ノ重罪ヲテ
除クノ外此一節ニ記シタル竊盜罪ヲ犯サントシテ其目的ヲ達セサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減シテ處斷ス

第三百七十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス 此二節ニ記載シタル竊盜罪ヲ犯シテ輕罪ノ刑即チ禁錮ニ處セラレタル者ハ其刑期ノ終リタル後六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三百七十七條 祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姊妹互ニ其財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論スルノ限ニ在ラス 祖父母父母夫妻子孫及ヒ子孫ノ配偶者又ハ同居スル兄弟姊妹ハ貧富ヲ同ラシ苦樂ヲ共ニスヘキ者ナレハ互ニ其財物ヲ竊取スルモ竊盜ヲ以テ論セサルナリ

第二節 強盜ノ罪 強盜ハ竊盜ト相對シ人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ人ノ所有物ヲ強奪スルヲ竊盜ヨリモ更ニ大ナリ故ニ其刑モ亦竊盜ヨリ重シ

第三百七十八條 人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ輕懲役ニ處ス 財物ヲ出サレハ殺スヘシト云フ如キ脅迫ヲ行ヒ又ハ人ヲ毆擊シ人ヲ制縛シ人ノ喉ヲ扼スルカ如キ暴行ヲ加ヘテ人ノ所有物ヲ強奪シタル者ハ強盜ト爲シテ輕懲役ニ處ス

第三百七十九條 強盜左ニ記載シタル情狀アル者ハ一個毎ニ一等ヲ加フ

- 一 二人以上共ニ犯シタル時
- 二 兇器ヲ携帯シテ犯シタル時

前條ニ記載シタル強盜若シ二人以上相共ニ罪ヲ犯シタル時ハ一等ヲ加ヘテ重懲役ニ處シ又一人ト雖モ兇器ヲ持シテ犯シタル時ハ同ク一等ヲ加ヘテ重懲役ニ處ス若シ二人以上兇器ヲ携帯シテ犯シタル時ハ同一ノ情狀アルヲ以テ上等ヲ加ヘ有期徒刑ニ處ス

第三百八十條 強盜人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ

テ隠匿シタル者ハ亦前條ニ同シ
他人ノ所有地内ニ於テ土中
埋藏シタル金銀其他ノ物品
ヲ掘リ得タル者ハ前條ニ同シ
申立テ、地主ト折宇スヘキニ之
又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百八十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百

七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セズ
前二條
シタル罪第三百七十七條ニ記載シタル祖父父母夫妻子孫
及ヒ其配偶者同居ノ兄弟姉妹ノ間ニ於テ互ニ犯シタル者ナ
ルハ其罪ヲ論スルコトナシ

第四節 家資分散ニ關スル罪
家資分散ハ即チ所謂身代
際詐偽ヲ行フ罪ナリ

第三百八十八條 家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛

偽ノ負債ヲ増加シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ
處ス

情ヲ知テ虚偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ爲シタル者

ハ一等ヲ減ス
家資分散ノ際負債者其財産ヲ隱匿シ又ハ竊ニ

ナキ負債ヲアリト申立テ偽テ負債ノ高チ増加シタル者ハ二
月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス
○其情ヲ知リナカラ分散者
ト謀テ虚偽ノ契約ヲ承諾シテ債主ナリト詐稱シ又ハ其媒介
ト施テ爲シタル者ハ前項ノ分散者ノ刑ニ一等ヲ減ス

第三百八十九條 家資分散ノ際牒簿ノ類ヲ藏匿毀棄シ若ク

ハ分散決定ノ後債主中ノ一人又ハ數人ニ其負債ヲ私償シ

テ他ノ債主ヲ害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ
處ス
家資分散ノ際牒簿ノ類ヲ藏匿毀棄シ又ハ分散ヲ爲ス
ト決
定シタル後ニ債主中ノ一人又ハ數人ニ負債ヲ私償シテ他
ノ債主ノ權利ヲ害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ
處ス

第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪
他人

第三百九十條 人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類

ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

欺クテ生セシムルヲ云フ俗ニ云フ「ユスリ」ニテ謀略ヲ以テ人ヲ脅シテ念ヲ生セシムルヲ云フ俗ニ云フ「ユスリ」ニテ人ヲ脅シテ乙若ク盗賊ナリト云ヒ張リテ財物ヲ得シト乙者ノ場所ニテ甲者ナリ右ノ欺取財ノ罪ト爲シテ金銀財物又ハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シテ罰金ニ附加ス四年以下ノ重禁錮ニ處シ行フカ爲メ四十圓以下ノ罰金又ハ私ノ附加ス〇右ノ欺取財ノ罪ト爲シタル者ハ第二條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三百九十一條

幼者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂シタルニ乘シテ其財物若ハ少證書類ヲ授與セシメタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

二十歳以下ノ幼者知慮淺薄不充ナル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十二條

物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ人ニ交付シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

物品ヲ賣リ又ハ他物ト交換スルニ其物質ヲ變シテ以テ論ス 人ニ渡シタル者例ヘハ油樽ノ底ニ水ヲ入レ金ヲ以テ銅ヲ包ミ純金ナリト云フノ類又偽造ノ秤等ヲ用テ米穀等ノ分量ヲ偽リテ人ニ渡シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論シ第三百九十一條ノ刑ヲ科ス

第三百九十三條

他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當ト爲シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

自己ノ不動産ト雖モ已ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重子テ抵當典物ト爲シタル者亦同シ

ノ所有スル動産金銀衣服器具等持チ運ヒテ爲スコト得ヘキ財産(不動産)土地建物ノ如ク持チ運ヒテ爲スコト得ヘキ借金ノ抵當又ハ質物ト爲シタル者ハ亦詐欺取財ヲ以テ論ス

ス○自己ノ不動産ニテモ已ニ抵當ト爲シ又ハ質入ト爲シタル者モ詐欺取財ヲ以テ論ス但シ動産ヲ二重ニ書入又ハ質入ニ爲シタル者ハ動産ヲ竊ニ取リ出シテ餘人ニ賣與シテ論ス又ハ質入ニ爲シタル者ハ第三百七十一條ニ依リ竊盜ヲ以テ論ス可シ

第三百九十四條 前數條ニ記載シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三百九十五條 受奇ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費消シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ騙取拐帶其他詐欺ノ所爲アル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

下ノ監視ニ付ス

他八ヨリ附托ヲ受ケタル物品又ハ借用物又ハ質ニ取リタル物品其他八ヨリ依頼ヲ受ケタル物品若シ欺テ之ヲ受取リ又ハ其物品ヲ拐帶シ其他天災ノ由テ消滅シタルヲ以テ論ス二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百九十六條 自己ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八條ノ例ニ照シテ處斷ス

自己ノ所有物ト雖モ裁判所又ハ行政官(地方官等)ヨリ爭訟ノ爲メ又ハ租税不納等ノ故ヲ以テ財産ヲ差押ヘラレタル其差押ヘラレタル財産ヲ隠匿シ又ハ賣與交換消費等ヲ爲シテ脱漏シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但シ家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八條ニ依リテ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百九十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未ダ遂クサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

此一節ニ記載シタル諸罪ヲ犯サントシテ未ダ其事ヲ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減シテ處斷ス

第三百九十八條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百

七十七條ニ揭ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス此節ニ

タル罪第三百七十七條ニ兄弟姉妹ナル親屬(祖父父母母夫妻子孫

第六節 贓物ニ關スル罪贓物トハ盜犯ノ盜ニ取リタル

第三百九十九條 強竊盜ノ贓物ナルヲ知テ之ヲ受ケ又ハ

寄藏故買シ若クハ牙保ホウヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下

ノ重禁錮ニ處シ三四以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス強盜

竊盜ノ盜ニ取リタル物件ナルヲ知テ之ヲ受ケ取リ又ハ預

一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰

第四百條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監

視ニ付ス強竊盜ノ贓物タルヲ知テ之ヲ受ケ取リ又ハ預

者ハ其主刑ノ終リタル後六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四百一條 詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルヲ

知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ

十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下

ノ罰金ヲ附加ス詐欺取財ノ物件又ハ其他官吏ノ受ケタル賄

ケ又ハ預リ又ハ買取リ若ハ請入證人トナリタル者ハ十一

日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金

第七節 放火失火ノ罪放火トハ故意ニ家屋等ニ火ヲ付ケ

ヲ測ル可ラサルヲ以テ之ヲ嚴刑ニ處ス

第四百二條 火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル者

ハ死刑ニ處ス他人ノ住居スル家屋ニ火ヲ付ケテ其家屋ヲ燒

スル家屋ニ火ヲ付ケテ其家屋ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

住居ニシタル家屋ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

死亡ニ處スル未ダ家屋ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

ハ二學校病院集會所芝居小屋見世物小屋燃揚ノ如キハ上等

ハ人之住居スレバ夜間ハ住居スル付ケテナキヲ以テ常トス斯
ノ如キ者ハ其ノ在ル時間ニ火ヲ付ケタルハ人ノ住居シ
タル家屋ニ放火シタル者トシテノ退散シタル者トス但シ付ケ
タルハ人ノ住居セサル建造物ニ放火シタル者トス但シ宿
直番人等常ニ寢食スル者アレハ人ノ住居シタル家屋ト爲ス

第四百三條

火ヲ放テ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ

燒燬シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

ハ無期徒刑ニ處ス○倉庫ニ建造物ニ火ヲ付ケテ燒燬シタル者ハ
倉庫等現ニ人ノ居ラサル建造物ニ火ヲ付ケテ燒燬シタル者
ハ無期徒刑ニ處ス○倉庫ニ建造物ニ火ヲ付ケテ燒燬シタル者
ケタル連接者ハ即チ本條ニ云フ人ノ住居セサル家屋トシテ
得スト故ニ人ノ住居スル家屋トシテ燒燬シタル者ハ前條ニ依
者ハ前條ニ依リテ死刑ニ處スヘシ

第四百四條

火ヲ放テ廢屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯フル屋舎ヲ

燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス

燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス前條ニ謂フ人ノ住居セサル家
家屋ニテ人ノ住居ス可ラサル家屋ナリ野邊ノ辻堂ノ如キモ亦
廢屋ノ内ニ合蓋スヘシ此廢屋及ヒ柴草或ハ肥草等ヲ入レ置
ク屋舎(納屋)ヲ燒ク者ハ重懲役ニ處ス但シ此納屋モ本條
接シ本屋ノ一部ヲ成ス者ハ家屋ト同ク視做スヘシ由テ本條
ノ部中ニハ入ラサルナリ

第四百五條

火ヲ放テ人ヲ乗載シタル船舶氣車ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

其人ヲ乗載セリル船舶氣車ニ係ル時ハ重懲役ニ處ス

其人ヲ乗載セリル船舶氣車ニ係ル時ハ重懲役ニ處ス現ニ
乘セタル船舶及ヒ氣車ニ火ヲ付テ燒キタル者ハ死刑ニ處ス
○現ニ人ヲ乗セサル船舶氣車ニ火ヲ付テ燒キタル者ハ
重懲役ニ處ス

第四百六條

火ヲ放テ山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル

柴草竹木其他ノ物件ヲ燒燬シタル者ハ輕懲役ニ處ス

柴草竹木其他ノ穀類麥類又ハ已ニ伐採シタル野邊ニ積置キタル
ノ竹木田野ノ穀類麥類又ハ已ニ伐採シタル野邊ニ積置キタル
ル柴草竹木其他ノ物件ヲ燒燬シタル者ハ輕懲役ニ處ス山林

第四百七條

火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ハ二月以

上二年以下ノ重禁錮ニ處ス
前條ノ家屋ノ火ヲ付ケタル者ハ其情大ニ異ナル者ハ重禁錮ニ處ス但シ自己ノ家屋ニ火ヲ付ケタル者ハ其情大ニ異ナル者ハ重禁錮ニ處ス但シ自己ノ家屋ニ火ヲ付ケタル者ハ其情大ニ異ナル者ハ重禁錮ニ處ス

ノ家屋ニ火ヲ付ケタル者ハ其情大ニ異ナル者ハ重禁錮ニ處ス但シ自己ノ家屋ニ火ヲ付ケタル者ハ其情大ニ異ナル者ハ重禁錮ニ處ス但シ自己ノ家屋ニ火ヲ付ケタル者ハ其情大ニ異ナル者ハ重禁錮ニ處ス

第四百八條 放火ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス
放火ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四百九條 火ヲ失シテ人ノ家屋財產ヲ燒燬シタル者ハ二圓以上二十四圓以下ノ罰金ニ處ス
失火ハ疎虞懈怠不注意等ニテ他人ノ家屋財產ヲ燒燬シタル者ハ二圓以上二十四圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十條 火藥其他激發ス可キ物品又ハ煤氣并蒸氣罐ヲ破裂セシメテ人ノ家屋財產ヲ毀壞シタル者ハ其故意ニ出ルト過失トヲ分テ放火出火ノ例ニ照シテ處斷ス
火藥其他激發ス可キ物品又ハ煤氣并蒸氣罐ヲ破裂セシメテ人ノ家屋財產ヲ毀壞シタル者ハ其故意ニ出ルト過失トヲ分テ放火出火ノ例ニ照シテ處斷ス

第四百十一條 堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シルタ家屋ヲ漂失シタル者ハ無期徒刑ニ處ス
若シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂失シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百十二條 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シテ田圃礦坑牧場ハ無期徒刑ニ處ス○若シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂失シシメタル者ハ重懲役ニ處ス

第八節 決水ノ罪
決水トハ堤防等ヲ破潰シテ水ヲ漲溢セシムルコトナリ

第四百十一條 堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シルタ家屋ヲ漂失シタル者ハ無期徒刑ニ處ス
若シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂失シタル者ハ重懲役ニ處ス

重懲役ニ處ス
堤防ヲ破潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ水ヲ漲流セシメタル者ハ無期徒刑ニ處ス○若シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂失シシメタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百十二條 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シテ田圃礦坑牧場

等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス 堤防ヲ破潰シ又ハ水閘ヲ
チ荒シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百十三條 他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲

メ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害シタル者ハ
一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ

罰金ヲ附加ス 他人ノ利益ヲ害シ又ハ自己ノ利益ヲ得ノカ爲

害スル所行ヲ爲シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處
シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但シ本條ハ單ニ堤防
ヲ破壞シ水閘ヲ毀壞シ水利ヲ妨害シタル者ノミチ罰スル刑
ニテ若シ之カ爲メニ人家ヲ漂流シ又ハ田圃ヲ荒廢シタル者
ハ第四百十一條及ヒ前條ニ依ル可キナリ

第四百十四條 過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ

照シテ處斷ス 過失ヲ以テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニヨリテ二圓以
上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第四百十五條 衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載シタル船舶

ヲ覆没シタル者ハ死刑ニ處ス但船舶中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處ス 自己ノ船舶ト他人ノ船舶ト之間ハ事故ヲニ他ノ船

船ヲ覆没セシメ又ハ其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載セタル
船中人ナケレハ無期徒刑ニ處ス但シ過失ヲ以テ人ヲ乘載シ
タル船舶ヲ覆没セシメ由テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ過失殺
傷ノ條ニ依ルヘシ

第四百十六條 前條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載セサル船舶ヲ覆

没シタル者ハ輕懲役ニ處ス 衝突其他ノ方法ヲ以テ故ラニ人
者ハ輕懲役ニ處ス

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第四百十七條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一

月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス 故ラニ他ノ人ノ家屋建造物ヲ毀壞シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス○若シ之レカ爲メニ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ第二十九條以下ノ毆打創傷ノ各本條ニ比照シ重キニ從テ處斷ス

第四百十八條 人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ園池ノ裝飾又ハ田圃ノ樊圍牧場ノ柵欄ヲ毀壞シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス 八ノ家屋ニ屬スル牆壁門垣壁ノ類ナリ園池ノ裝飾庭園ノ石燈籠垣橋ノ類ナリ又ハ田圃ノ樊圍(田畑)ノ經界ヲ畫スル垣ナリ牧場ノ柵欄ヲ毀壞シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十九條 人ノ穢穢竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタル

者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス 穢穢トハ穀麥ノ類ナリ其他需用ノ植物トハ棉茶密野菜等總テ人ノ用ヲ爲ス 以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十條 土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又ハ移轉シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 土地ノ經界ヲ表スル爲メノ杭石樹木等ヲ毀壞シ又ハ他所ニ移轉シテ經界ヲ紊亂セントスル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十一條 人ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス 器物トハ衣服手道具等一切ノ動産ナリ之ヲ故ラニ毀壞シ又ハ棄テタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮カ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十二條 人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ一月以上六月以

下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
ハ人ノ職業ニ必要ナル獸類ナレハ故テニ之ヲ殺シタル者ハ
一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰
金ヲ附加ス

第四百二十三條 前條ニ記載シタル以外ノ家畜ヲ殺シタル

者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ

待テ其罪ヲ論ス 牛馬ヲ除ク外ノ家畜(人カ飼ヒ置ク所ノ獸類
即チ羊豚鶏犬猫ノ類ハ牛馬ノ如ク緊要ニア

ラサルヲ以テ之ヲ殺シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金
ニ處シ且ツ其所有主ノ告訴スルヲ待テ其罪ヲ論ス

第四百二十四條 人ノ權利義務ニ關スル證書類ヲ毀棄滅盡

シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三

十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 人ノ權利義務ニ關スル證書即チ貸
借贈遺等一切ノ證書ヲ毀棄滅盡シ

タル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上三十圓
以下ノ罰金ヲ附加ス

第四編 違警罪 違警罪ハ唯ク取締ノ規則ニ背クノミニテ其
罪ノ最モ輕キ者ナリ

第四百二十五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以

下ノ拘留ニ處シ又ハ一回以上一回九十五錢以下ノ科料ニ

處ス 左ニ記列シタル者ハ違警罪中ニテ稍ヤ重キ者ナレハ三日
以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一回以上一回九十五錢以
下ノ科料ニ處ス

一規則ヲ遵守セシテ火藥其他破裂ス可キ物品ヲ市街ニ

運搬シタル者 火藥其他破裂ス可キ物品ヲ運搬スル
ハ規則アリ即チ火藥ハ火藥ト記シタル旗

ヲ掲ケテ之ヲ運送スルハ本條ノ刑ニ處ス○火藥運送ニ付テハ明治四年
辛未十月兵部省ノ布告アリ

二規則ヲ遵守セシテ火藥其他破裂ス可キ物品又ハ自ラ

火ヲ發ス可キ物品ヲ貯藏シタル者 火藥其他破裂ス可キ
物品又ハ石炭油ノ如
キ自カラ火ヲ發スルハ本條ノ刑ニ處ス
規則ヲ遵守セシテ之ヲ貯藏シタル者ハ本條ノ刑ニ處ス

三官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者烟火ハ

能ハルノ危険アルヲ以テ官許ヲ得サレハ之ヲ製造販賣スルコ

四人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル

者人家稠密ノ場所トハ市中等ノ如ク人家ヲ建テ連テタル場
所ナリ此場所ニテ濫リニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者ハ本
條ノ刑ニ處ス

五蒸氣器械其他烟筒火竈ヲ建造修理シ及ヒ掃除スル規則

ニ違背シタル者蒸氣器械烟筒火竈ハ破裂出火ノ恐アルヲ
以テ之ヲ建造修理シ及ヒ掃除スル規則アリ此規則ニ違背シタル者ヲ云フ

六官署ノ督促ヲ受ケテ崩壊セントスル家屋牆壁ノ修理ヲ

爲サ、ル者家屋牆壁ノ崩壊セントスル者ハ人ニ害ヲ加フ
ルノ恐アルヲ以テ官署ヨリ之ヲ修理スヘキノ命
ヲ下スコトアリ此命ニ從ハサル者ヲ云フ

七官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シタル者醫術試験ノ爲メ預

シメ官許ヲ得サル者ナリ
八自己ノ所有地内ニ死屍アルコトヲ知テ官署ニ申告セス又

ハ他所ニ移シタル者自分ノ所有地内ニ死屍又ハ變死ノ死
體アルコトヲ知リナカラ警察官ニ届ケ
出テス又ハ擅ニ他所ニ轉移シタル者

九人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者人ヲ毆テ創傷ヲ付

ケ又ハ疾病ニ至ラ
シメタル者若シ創傷疾病ニ至ラシメタル者ハ第二百九十九
條以下毆打創傷ノ本條ニ依ル

十密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者官ヨリ鑑

スシテ密ニ淫ヲ賣リ又ハ其密賣淫ノ媒介中宿ヲ爲シタルモ
ノ
十一人ノ住居セサル家内屋ニ僭伏シタル者人ノ住居セサ
ル明家ノ内ニ
潜伏シタル者ナリ

十二定リタル住居ナク平常營生ノ産業ナクシテ諸方ニ徘徊

御スル者定リタル住居ナク又平常定マリタル職業ナクモテ

十三官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者埋葬ハ官許ノ墓地外ニ於テ私ニ行フ可カラズ

十四違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者但被告人偽證ノ爲メ刑ヲ免カレタル時ハ第二百十九條ノ例ニ從

フ裁判所ニ於テ証人トナリ違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲メ偽ハ第二十九條ノ例ニ依リ本刑ニ等チ加ヘテ三日以上十日以下ノ拘留又ハ一圓二十五錢以上二圓四十錢以下ノ科料ニ處ス

第四百二十六條

左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ

一 人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者傍又ハ山林田野ニテ濫リニ火ヲ焚ク者ハ家屋樹木等ニ延焼スルノ恐アルヲ以テ之ヲ罰スルナリ

二 水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦ス可キノ求メテ受ケ傍觀シテ之ヲ肯セサル者水難火難其他ノ變アル正官吏ヨリ助カスヘキノ求メテ受ケテ之ヲ肯セサル者ナリ

三 不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者未熟ノ菓物又ハ腐敗シタル肉類等ヲ賣ル者

四 健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫防規則ニ違背シタル者健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則等ヲ云フ傳染病豫防規則トハ虎刺病豫防規則ノ類ヲ云フ但シ第二百四十六條ヨリ第二百四十九條ニ記シタルヨリ以外ノ者ナリ

五人ノ通行ス可キ場所ニアル危険ノ井溝其他井溝其他ハ防圍ヲ爲サハル者ハ衆人ノ通行スヘキ往來ニアル井溝其他ハ防圍ヲ爲サハル者ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ放シ又ハ驚逸セシメタル者

道路ニテ犬ヲ嘯シ又ハ牛馬等ヲ驚シ走ラセタル者

七發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者 發狂人ノ看守注意ヲ怠リテ道路ニ出シ徘徊セシメタル者

八狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放シタル者 狂犬其他猛獸ヲ飼フ者其繫鎖ヲ怠タリテ路上ニ出テシメタル者

九變死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋葬シタル者 變死人ハ謀殺故殺毆殺自殺ニ係ル者ヲ云フ此變死人アリタルハ警察官吏等ノ檢視ヲ經スシテ埋葬シタル者

十墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚瀆シタル者 墓碑ノ石道路上ニ安置シタル神佛ノ像ヲ毀損シ又ハ糞土等不潔ノ物ヲ以テ之ヲ汚シタル者

十一神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者 神祠佛堂其他集會所等公ノ建造物ニ樂書等ヲ爲シテ汚損シタル者ヲ云フ

十二公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者但訴ヲ待テ其罪ヲ論ス ノ目前ニテ公然人ヲ罵詈シ又ハ嘲弄シタル者但シ其罵詈嘲弄ハ必ス其罵詈嘲弄ヲ受タル者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四百二十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス 左ニ記列シタル諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

一 監リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者 故車人カ車又ハ馬ヲ疾驅シテ往來人ノ妨害ヲ爲シタル者ナリ

二 制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽キタル者 人ノ群集シタル場所ニハ警察官吏ヨリ車馬ヲ牽キ入ル者ハコトヲ制止スルアリ此制止ヲ肯セスシテ車馬ヲ牽キタル者ナリ

三 夜中燈火ヲシテ車馬ヲ疾驅スル者 夜中燈火ヲ點セスシテ人カ車馬車又

八馬ヲ疾驅シタル者

四本石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケス又ハ標識ノ點燈

ヲ怠リタル者木材瓦石等ヲ道路傍ニ堆積シテ防圍ヲ設ケス

五瓦礫ヲ道路家屋圍ニ投擲シタル者瓦礫ヲ道路又ハ家屋圍ニ投

タル者ナリ

六禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサル者禽獸ノ死

ニ棄テ又ハ道路ニ禽獸ノ死骸アルキ之ヲ取除カサル者ナリ

七汚穢物ヲ道路家屋圍ニ投擲シタル者糞土腐敗物魚鳥

ヲ道路又ハ人ノ家屋庭圍ニ投ケタル者ナリ

八警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シタル者鍛冶職及

械ヲ裝置スル製造所及ヒ雇人請宿旅人宿寄セ席揚弓店等ヲ

取リ營ムニハ警察ノ規則アリ此規則ニ違背シタル者本條

九醫師穩婆事故ナクシテ急病人ノ招キニ應セサル者醫師

ノ急病人アリトテ呼ニ來リタルトキ正當ノ事故ナクシテ招

十死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋葬シタル者死亡者アルヒハ

添ヘテ役所ニ届ケテ後ニ埋葬ヲ取行フヘシ若シ死亡届ヲ爲

十一流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者無根ノ事ヲ言觸ラ

ル者ナリ

十二妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符咒等ヲ爲シ人ヲ惑ハ

シテ利ヲ圖ル者利益ヲ得ノカ爲メニ觀相卜筮等ヲ以テ人

佛ノ札ヲ出スル呪虚偽ノ術ヲ以テ人ノ病ヲ治スルモ云フ者

ノ類其他市子口寄セノ類ヲ爲シテ人ヲ惑ハシタルモ云

十三私有地外へ濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シタ

ル者人民所有地ノ外へ濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹及ヒ

楹ヲ張り出シタル者ナリ

十四官許ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キタル者
政府ノ許可ヲ受ケスシテ路傍又ハ河岸ニ床店ヲ設ケ出シタ
ル者

十五路上ノ植木市街ノ常燈及ヒソウバヤ廁場等ヲ毀損シタル者
ノ植木市街ノ常燈及ヒ大小便所等ヲ毀損シタル者ナリ

十六道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ヒミチノ指道
標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者

道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行止ノ札及ヒ道ノ案内
ヲ知ラスル爲メニ設ケタル標等ヲ毀損又ハ汚損シタル者ナリ

第四百二十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處
シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

左ニ記列シタル者ハ一日
ノ拘留又ハ一圓以下ノ科料ニ處ス

一官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル
者

證券印紙訴訟用紙郵便切手等官ヨリ價ヲ定メラレタル
者其定價以上ニ賣リ捌キタルモノナリ

二渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又
ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者

渡船橋梁新築ノ道路等通行錢
ヲ取ル者ハ官許ヲ得テ其價ヲ
定メ置クナリ若シ其定價ヨリ以外ノ金錢ヲ貪ル者ハ本條ニ
依ル

三渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其定價ヲ出
サスシテ通行シタル者

此項ハ前項ト反對ニテ通行錢ヲ拂
ハサル者ナリ

四路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者
路上ニテ賭

ケ博奕ニ似寄リタル商賣ヲ爲シタル者ナリ
食物等ヲ賭

五官許ヲ得スシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違
背シタル者

劇場其他觀物場ヲ開クハ豫メ官許ヲ受ケス又
ハ官許ヲ受ケテモ其規則ニ違背シタル者ナリ

六溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ
浚ハサル者

溝渠下水ヲ毀損シ又ハ警察官ノ催促ヲ受ケテ
其溝渠下水ヲ浚ハサル者ナリ

七制止ヲ肯セスシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル

者官ノ制止ヲ受ケテ之ニ從ハス路傍ニ飲食物其他ノ商賣品ヲ陳列シタル者ナリ

八官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放チ又ハ牧畜シタル者

官ノ許可ヲ得スシテ官有地ニ牛馬等ヲ放チ又ハ牧畜シタル者ナリ

九身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業トスル者身體ニ刺文ヲ爲スハ天理ニ戾リ

風俗ヲ敗ルノ恐アルヲ以テ以前己ニ之ヲ禁制セリ今之ヲ違

十他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者他人ノ繫キ置

キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解キ放チタル者ナリ

十一他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者他人ノ繫キ置タル舟筏ヲ解キ放

チタル者ナリ

第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢

以下ノ科料ニ處ス左ノ件々ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

一橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ル可キ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者

橋又ハ堤ノ妨害トナル可キ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者ナリ

二牛馬諸車其他ノ物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭等ヲ

堆積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者牛馬諸車其他ノ物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石

薪炭瓦礫等ヲ道路ニ堆積シテ往來人ノ妨害ヲ爲シタル者ナリ

三車馬ヲ並ヘ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者車又ハ馬ヲ並

ノ妨害ヲ爲シタル者ナリ

四水路ニ於テ舟ヲ並ヘ通船ノ妨害ヲ爲シタル者川中ニ於

テ舟ヲ並

五氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者氷雪塵芥等ヲ道路ニ棄

又ハ道路ヲ不潔ニシタル者ナリ

六官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲サ、ル者官ヨリ道

ヲ爲スヘキ督促ヲ受ケテ其掃除ヲ爲サ、ル者ナリ

七制止ヲ肯セスシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シ

タル者 路上ニテ警察官ノ制止ヲ受ケナガラ之ヲ肯セスシテ紙薦ヲ上ケ羽根ヲ撲チ獨樂ヲ玩フ等ノ者ナリ

八牛馬ヲ牽キ又ハ繫クノヲ忽カセニシテ行人ノ妨害ヲ爲

シタル者 牛馬ヲ牽キ行キ又ハ路傍ニ繫キ置クノヲ忽カセニシテ往來人ノ妨害ヲ爲シタル者ナリ

九出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リニ出入シタル者 出入ヲ禁止スル場所ニ故ナク出入シタル者ナリ

十通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シタル者 往來止ノ掲示アル場所ヲ往來シタル者ナリ

十一道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シテ制止ヲ肯セサル者 道路ニ於テ歌ヲ唱ヘ又ハ高聲ヲ發シ警察官吏ノ制止ヲ受ケテ之ニ從ハサル者ナリ

十二酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者 酒ニ酔フテ路上ニ喧噪シタル者ナリ

シ又ハ路上ニ臥シタル者ナリ

十三路上ノ常燈ヲ消シタル者 路上ノ常燈ヲ消シテ往來人ノ便利ヲ害シタル者ナリ

十四人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ樂書シタル者 人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ樂書シタル者ナリ

シテ人家ヲ汚シタル者ナリ

十五邸宅ノ番號標札招牌又ハ貸家賣家ノ貼紙其他報告ノ

榜標等ヲ毀損シタル者 邸宅ノ番號標札招牌貸家賣家ノ張紙其他轉宅ヲ報スル張紙等ヲ毀損シタル者

十六他人ノ田野園圃ニ於テ茶菓ヲ採食シ又ハ菓卉ヲ採折

シタル者 他人ノ田野又ハ園圃ニ植付ケタル野菜菓實ヲ採リ食ヒ又ハ花ヲ手折リタル者ナリ

十七公園ノ規則ヲ犯シタル者 公園地ニ掲示シタル規則ヲ犯シタル者

十八通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入レタル

者 通行スヘキ路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽キ入レタル者ナリ

者

者

者

者

第四百三十條 前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜ニヨリ

定ムル所ノ違警罪ヲ犯シタル者ハ其罰則ニ從テ處斷ス前

ハ全國一般ニ違警罪トシテ罰スル者ナリ其他各地方ノ便宜件
ニヨリ其地方限リ定メタル違警罪ヲ犯シタル者ハ其規則ニ
從テ罰スルト云フナリ

增補 刑法註解大成 終

治罪法目錄

第一編 總則 自第一條至第三十條

第二編 刑事裁判所ノ構成及ヒ權限 自第三十一條至第九十一條

第一章 通則 自第三十八條至第四十九條

第二章 違警罪裁判所 自第五十條至第五十九條

第三章 輕罪裁判所 自第六十條至第六十四條

第四章 控訴裁判所 自第六十五條至第六十九條

第五章 重罪裁判所 自第七十條至第七十六條

第六章 大審院 自第七十七條至第八十二條

第七章 高等法院 自第八十三條至第九十一條

第三編 犯罪ノ捜査起訴及ヒ豫審 自第九十二條至第二百六十一條

第一章 捜査 自第九十二條至第二百六十一條

治罪法註解大成目錄

第一節 告訴及口告發 自第九十九條至第一百零三條

第二節 現行犯罪 自第六條至第一百零六條

第二章 起訴 自第一百零七條至第一百二十二條

第一節 檢察官ノ起訴 自第一百零七條至第一百九十七條

第二節 民事原告人ノ起訴 自第一百九十七條至第一百二十二條

第三章 豫審 自第一百十三條至第一百十七條

第一節 令狀 自第一百十八條至第一百二十二條

第二節 密室監禁 自第一百四十三條至第一百四十五條

第三節 證據 自第一百四十六條至第一百四十八條

第四節 被告人ノ訊問及口對質 自第一百四十九條至第一百五十九條

第五節 檢證及口物件差押 自第一百六十八條至第一百六十九條

第六節 證人訊問 自第一百七十條至第一百七十條

第七節 鑑定 自第一百九十一條至第一百九十一條

第八節 現行犯ノ豫審 自第一百九十一條至第一百九十一條

第九節 保釋 自第一百九十一條至第一百九十一條

第十節 豫審終結 自第一百九十一條至第一百九十一條

第四章 豫審上訴 自第一百九十一條至第一百九十一條

第四編 公判 自第一百九十一條至第一百九十一條

第一章 通則 自第一百九十一條至第一百九十一條

第二章 重罪公判 自第一百九十一條至第一百九十一條

第三章 輕罪公判 自第一百九十一條至第一百九十一條

第四章 重罪公判 自第一百九十一條至第一百九十一條

第五編 大審院ノ職務 自第一百九十一條至第一百九十一條

第一章 上告 自第一百九十一條至第一百九十一條

第三條

公訴ハ被害者ノ告訴ヲ待テ起ル者ニ非ラス又告訴

私訴ノ棄權ニ因テ消滅スル者ニ非ス但法律ニ於テ特ニ定

メタル場合ハ此限ニ在ラス

國家ニ屬スル所ノ公權ナリ私訴ハ一人ノ私益ヲ公訴

タル故ニ以テ一人ノ私益ヲ公訴スル者ハ其原

モ之ヲ有スル者モ相違ナリ然レバ公訴者ハ被害者

ニ獨立シテ相違ナリ然レバ公訴者ハ被害者

ヲ爲スハ被害者ニ始メテ起ル者ニ非ス

シ又ハ被害者ニ於テ公訴ハ私訴カテ爲メモ檢事

モ其犯罪ノ原則治ハシテ犯人ノ刑ニ處スルニテ

趣意ナリ其罪ヲ論シト云フニテ雖モ法律ニテ

被害者ヨリ其罪ヲ論シト云フニテ雖モ法律ニテ

ス又被害者ニ告テ己ハ告訴タル止メハ私訴ハ公

權ヲ被棄者ニ告テ己ハ告訴タル止メハ私訴ハ公

滅シテ復テ其罪ヲ論シタルメタル場合ハ是レ本

三法五十三條ニ於テ特ニ定メタル場合ハ是レ本

法ニ於テ三條ニ定メタル場合ハ是レ本

第四條

私訴ハ其金額ノ多寡ニ拘ハラズ公訴ニ附帶シテ刑

事裁判所ニ之ヲ爲スヲ得但法律ニ於テ其裁判所ニ私訴

ヲ爲スヲ許サハル場合ハ此限ニ在ラス

又私訴ハ別ニ民事裁判所ニ之ヲ爲スヲ得

求スル所ノ私訴ハ元ト民事ノ性質ナレバ犯罪

者ナルヲ以テ然レバ民事ノ附帶シテ犯罪

爲スルヲ得然レバ民事ノ附帶シテ犯罪

道モ効ナシテ以テ然レバ民事ノ附帶シテ犯罪

ルモ効ナシテ以テ然レバ民事ノ附帶シテ犯罪

事ノ當ル犯罪ハ陸海軍裁判所ニ如キテ陸軍

事ノ當ル犯罪ハ陸海軍裁判所ニ如キテ陸軍

事ノ當ル犯罪ハ陸海軍裁判所ニ如キテ陸軍

治罪法註解大成

第五條

公訴私訴ノ裁判ハ管轄裁判所ニ於テ現ニ施行スル
法律ニ定メタル訴訟手續ニ從ヒ之ヲ爲ス可シ

手續ハ其時現ニ施行セラル、法律ニ依ルヘキナリ故ニ公訴
私訴ノ裁判ハ其時現ニ施行セラル、法律ニ定メタル訴訟手
續ニ從テ之ヲ爲ス可シ而シテ其裁判ノハ第二章ニ於テ之
ヲ管轄スル裁判所ナリ管轄裁判所ノハ第二章ニ於テ之
説ク可シ

第六條

刑事裁判所又ハ刑事裁判所ト民事裁判所トニ於テ
公訴私訴並起ル時ハ公訴ノ裁判ニ先テ私訴ノ裁判ヲ爲ス

可カラズ若シ賠償返還ノ言渡アリタル後刑ノ言渡アリタ
ル時ハ共ニ其效ナカル可シ
刑事裁判所ニ公訴ヲ起シ民事裁判所ト並ヒ起ルカ又ハ同時ニ公
訴ノ裁判ヨリ前ニ私訴ノ裁判ヲ爲ス可ラズ其故ハ若シ先ニ公
民事裁判所ニ於テ損害賠償物返還ノ言渡アリタル後刑ノ言渡
事ノ裁判官或ハ此民事損害賠償物返還ノ言渡アリタル後刑
告人ニ不利益ナル此民事損害賠償物返還ノ言渡アリタル後刑
ニ若シ此規則ニ背キ公訴ノ裁判ヲ爲ス先ニ私訴ノ裁判ヲ爲シ

第七條

民事裁判所ニ私訴ヲ爲シタル時ハ檢察官ノ起訴ア
ルニ非サレハ願下ヲ爲シ更ニ刑事裁判所ニ其訴ヲ爲ス

テ損害賠償物返還ノ言渡アリタル後刑ノ言渡アリタル後刑
ノ裁判モ共ニ其效ナシ但シ公訴ノ裁判ニ先テ私訴ノ裁判
又ハ私訴ノ裁判ニ後ニ言渡アリタル後刑ノ言渡アリタル後
即チ被告ノ無罪又ハ免罪ノ言渡アリタル後刑ノ言渡アリ
誘導シテ被告ノ不利ナル裁判ヲ爲シタル時ハ檢察官ノ起
ルニ非サレハ願下ヲ爲シ更ニ刑事裁判所ニ其訴ヲ爲ス

刑事裁判所ニ私訴ヲ爲シタル時ハ被告人ノ承諾ヲ得テ願
下ヲ爲シ更ニ民事裁判所ニ其訴ヲ爲ス

治罪法註解大成

民事裁判所ニ被告ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ願下ヲ爲シテ更ニ

第八條 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ民法

ニ從ヒ被害者ヨリ賠償返還ヲ要ムルノ妨礙ト爲ルコトナカ

ル可シ被告ノ刑モ被害者ヨリケス民テ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受

テ第二百二十四條ニ記列シタル理由以下ノ理由ヲ以テ公訴ヲ

及ヒ公判ニ於テ第二條ニ記列シタル理由以下ノ理由ヲ以テ公判

ハ被告ノ私訴ヲ爲スルニ能ハサル者トシテ免訴ノ言渡ヲ受ケタリ

ハ他人ノ物品ヲ私訴ニ爲シテ賠償返還ヲ求メタル者トシテ免

以テ罪ノ物品ヲ私訴ニ爲シテ賠償返還ヲ求メタル者トシテ免

スルニ從ヒ其物品ヲ私訴ニ爲シテ賠償返還ヲ求メタル者トシテ免

第九條 公訴ヲ爲スノ權ハ左ノ條件ニ因テ消滅ス

一 被告人ノ死去

二 告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付テハ被害者ノ棄權又ハ

私利

三 確定裁判

四 犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止

五大赦

六 期滿免除

ル前ニ死亡スル者ノ告訴ヲ棄權シテ受ケタリト雖モ民法ニ從ヒ被害者ヨリ賠償返還ヲ要ムルノ妨礙ト爲ルコトナカ
スルノ權モ亦消滅シテ受ケタリト雖モ民法ニ從ヒ被害者ヨリ賠償返還ヲ要ムルノ妨礙ト爲ルコトナカ
ハ甚ダ不都合ニテハ被告ノ私訴ニ爲シテ賠償返還ヲ求メタル者トシテ免訴ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ民法ニ從ヒ被害者ヨリ賠償返還ヲ要ムルノ妨礙ト爲ルコトナカ
確定裁判ニ確定シタル後ハ被告ノ私訴ニ爲シテ賠償返還ヲ求メタル者トシテ免訴ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ民法ニ從ヒ被害者ヨリ賠償返還ヲ要ムルノ妨礙ト爲ルコトナカ
刑ノ廢止ニ因リテ被告ノ私訴ニ爲シテ賠償返還ヲ求メタル者トシテ免訴ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ民法ニ從ヒ被害者ヨリ賠償返還ヲ要ムルノ妨礙ト爲ルコトナカ
消滅スルノ權モ亦消滅シテ受ケタリト雖モ民法ニ從ヒ被害者ヨリ賠償返還ヲ要ムルノ妨礙ト爲ルコトナカ

治罪法註解大成

第十六條 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ其訴訟ノ原由告訴人告發人又ハ民事原告人ノ惡意若クハ重キ過失ニ出テタル時ハ是等ノ者ニ對シ損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得

被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ告訴人告發人又ハ民事原告人ヨリ惡意若クハ重キ過失ニ因リ其犯罪ニ付キ過實ノ申立ヲ爲シタル時亦同シ

民事原告人豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ上訴ヲ爲シ敗訴シタル時ハ被告人其上訴ニ因リ生シタル損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得

要償ノ訴ハ本案ノ裁判言渡アルマテ何時ニテモ其裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得 被告入罪アリトノ裁判ヲ受ケタル時ハ民事原告人ニ對シテ損害ノ賠償ヲ爲サハル

テ得ル由之ニ反シテ被告入免訴又ハ民事原告人ノ惡意若クハ重キ過失ニ出テタル時ハ是等ノ者ニ對シ損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得

被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ告訴人告發人又ハ民事原告人ヨリ惡意若クハ重キ過失ニ因リ其犯罪ニ付キ過實ノ申立ヲ爲シタル時亦同シ

民事原告人豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ上訴ヲ爲シ敗訴シタル時ハ被告人其上訴ニ因リ生シタル損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得

要償ノ訴ハ本案ノ裁判言渡アルマテ何時ニテモ其裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得 被告入罪アリトノ裁判ヲ受ケタル時ハ民事原告人ニ對シテ損害ノ賠償ヲ爲サハル

テ得ル由之ニ反シテ被告入免訴又ハ民事原告人ノ惡意若クハ重キ過失ニ出テタル時ハ是等ノ者ニ對シ損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得

被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ告訴人告發人又ハ民事原告人ヨリ惡意若クハ重キ過失ニ因リ其犯罪ニ付キ過實ノ申立ヲ爲シタル時亦同シ

民事原告人豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ上訴ヲ爲シ敗訴シタル時ハ被告人其上訴ニ因リ生シタル損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得

要償ノ訴ハ本案ノ裁判言渡アルマテ何時ニテモ其裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得 被告入罪アリトノ裁判ヲ受ケタル時ハ民事原告人ニ對シテ損害ノ賠償ヲ爲サハル

告發人ニハ上訴ヲ爲スノ權ナケレハナリ○右要償ヲ訴ハ其
本案事件ニ付言渡アルマテハ何時ニテモ其本案ヲ裁判スル
所ノ裁判所ニ之ヲ爲スヲ得可シ

第十七條

被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ裁判官檢察

官書記又ハ司法警察官ニ對シ要償ノ訴ヲ爲スヲ得ス但

是等ノ官吏被告人ニ對シ故意ヲ以テ損害ヲ加ヘ又ハ刑法

ニ定メタル罪ヲ犯シタル場合ハ此限ニ在ラス

官等ハ皆其職務ヲ以テ犯罪ヲ捜査シ審理ヲ行フ者ナリ若シ

是等ノ者ノ過失ノ爲メニ被告人審理ヲ受ケ終ニ無罪ニ歸シ

タル時損害ヲ賠償セシムルハ是等ノ官吏其賠償ヲ恐レテ

有罪ヲ免脱スルノ弊アルヘシ故ニ被告人無罪ノ言渡ヲ受

ルトモ是等ノ官吏ニ向テ要償ノ訴ヲ爲スヲ能ハス然レ惡意

ヲ以テ故ラニ被告人言渡ヲ爲シタル如ク刑法ニ定メタル罪

ヲ犯シタルハ被告人ヨリ要償ノ訴ヲ爲スヲ得可シ

第十八條

此法律ニ於テ期限ヲ計算スルニ時ヲ以テスル者

ハ即時ヨリ起算シ日ヲ以テスル者ハ初日ヲ算入セス若シ

最終ノ日休暇ニ當ル時ハ期限ニ算入ス可カラズ但期滿免

除ノ期限ハ此限ニ在ラス

一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日

ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ云フ者ハ其即時ヨリ起算

トシ幾何日ト云フ者ハ初日ヲ算入セスシテ計算ス例ハ三日

ト云フ者ハ其日ヨリ第四日ヲ算入セスシテ計算ス例ハ三日

終ノ日休暇ニ當ル時ハ其日ヲ算入セス故ニ三日ノ期

限ニテ最終ノ日休暇ニ當ルハ其日ヨリ第五日ヲ以テ期

限ノ滿ル者トス但シ期滿免余ノ期限ハ此例ニ依ル可カラズ

○日月年ノ計算方ハ刑法ト同一ナリ其事ハ刑法第四十九條

ニ於テ説キタリ

第十九條

此法律ニ定メタル期限ニハ陸路八里毎ニ一日ノ

猶豫ヲ加フ八里ニ滿サル者ト雖モ三里以上ナル時亦同シ

島地又ハ外國トノ路程ノ猶豫ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

此法律ニ定メタル期限内ニ權利ヲ行ヒ又ハ義務ヲ行フヘキ

者裁判所ヨリ遠隔ノ地ニ在ル時ハ陸路八里コトニ一日ノ猶

豫テ増ス其八里ニ滿サル者モ三里以上ナレハ亦一日ノ猶豫
ス特別ノ法律ヲ以テ定メラルヘシ

第三十條

此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期限ヲ

經過シタル時ハ特別ノ場合ヲ除クノ外其權ヲ失フ可シ

罪法ニテ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期限ヲ經過シタル時ハ
特別ノ場合ヲ除クノ外其訴訟ヲ爲スノ權ヲ失フハ特別ノ
場合トハ上訴ニ付キ定メタル第二百五十八條第三百十二條

第二十一條

訴訟關係人ハ裁判所々在ノ地ニ住セサル時ハ

其地ニ假住所ヲ定メ書記局ニ届置ク可シ否ラサル時ハ書
類ノ送達ナシト雖モ異議ヲ申立ルヲ得ス

人民事原告人民事擔當人ハ謂フ是等ノ者其裁判所々在ノ地
ニ住居セサル時ハ其裁判所々在ノ地ニ假住所ヲ定メテ之
類ノ送達ノ書記局ニ届ケ置クハ然ルモ假若シ都テ裁判所
ニ送達スルニハ此假住所ニ發スルシテ若シ假住所ヲ定
裁利ニ損害アルモ異議ヲ申立ルヲ得ス

第二十二條

此法律ニ於テ訴訟關係人ニ書類ヲ送達スルニ

付キ別ニ規則アラサル時ハ書記其送達書ヲ作り書記局所
屬ノ使丁ヲシテ之ヲ送達セシム

若シ書類ノ送達ヲ受ク可キ者裁判所ノ管轄地外ニ在ル時
ハ其地ノ裁判所ノ書記ニ送達ノ事ヲ囑託ス可シ

送達スルニハ郵重ノ手數ヲ盡サハル可ラス然ラサル
ハ送達ノ書類ハ送達シタルヤ否知ルヲ得サルヲ然ラサ
故ニ通常其書類ハ送達ノ事ヲ書記ニ作リ書記局ニ附屬
使丁ヲシテ之ヲ送達シシム○書記ハ其裁判所ノ管轄地
於テノ其職務ヲ行フヲ得ル○書記ハ其裁判所ノ管轄地
職務ヲ行フヲ得ル○書記ハ其裁判所ノ管轄地ニ於テ其
關係人ニ書類ヲ送達スルニ付キハ其管轄地ニ於テ其
ノ事ヲ囑託ス可シ其囑託ヲ受ケタル書記ハ自己ノ職
ヲ行フト同一ニ其事ヲ執リ行フヘキハ勿論ナリ

第二十三條

送達書ハ二通ヲ作り其一通ヲ本人ニ渡ス可シ

本人ニ渡メトナ得サル時ハ其住所ニ於テ同居ノ親屬又ハ

雇人ニ渡ス可シ

送達人ハ之ヲ受取リタル者ヲシテ其二通ニ署名捺印セシム若シ署名捺印スルヲ能ハサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ同居ノ親屬又ハ雇人ニ書類ヲ渡ストテ得ス若クハ是等ノ者之ヲ受取ルヲ肯セサル時ハ其地ノ戸長ニ渡置キ戸長ハ其書類ニ認印シ速ニ本人ニ送達スルノ處分ヲ爲ス可シ送達人ハ書類ヲ受取リタル者ノ氏名場所及ヒ日時ヲ其二通ニ記載ス可シ

本條ノ規則ニ背キタル時ハ書類送達ノ效ナカル可シ

送達人ハ其一通ヲ書記局ニ還納シ書記局ニ於テハ送達ノ

證トシテ之ヲ保存ス可シホウソク本條ハ書類送達ノ手續ヲ定メタル

所在分明ナラザルカ又ハ其一通ヲ本人ニ渡ス可シ若シ本人ノ

人ニ渡スコトヲ得サル時ハ其住所ニ就テ同居ノ親屬又ハ雇人ニ渡スヘシ送達人ハ其書類ヲ受取タル者ヲシテ二通ニ親ラ姓名ヲ署名シ捺印セシムハ其旨ヲ記スヘシ若シ又本人ニ渡スハ之ヲ肯シテ同居ノ親屬雇人ニ渡スハ其地ノ戸長ニ渡シ戸長ハ其書類ヲ取ルヲ肯シテ本人ニ送達スルノ手續ヲ爲スヘシ右ノ如ク本人ニ渡シタルトモ同居ノ親屬雇人又ハ戸長ニ渡シタルハ本人ニ渡シタルトモ同一ノ効アリトス

第二十四條 休暇ノ日及ヒ日出前日没後ハ書類ノ送達ヲ爲

ス可カラズ此規則ニ背キタル時ハ其送達ノ效ナカル可シ

但本人承諾シテ其送達ヲ受ケタル時ハ此限ニ在ラス休日

ハ衆人ノ休息遊樂ムヘキ日ナリ日没後日出前ハ衆人ノ休息ス安眠ヘキ時ナリ若シ此日時ニ於テ書類ヲ送達スルハ人ノ安息ヲ妨害シ其書類ヲ本人ニ送達スルモ時刻遅延スルノ恐アリ故ニ送達ヲ許サズ縱令ヒ送達スルモ其效アリトス

第二十五條 官吏ノ作ル可キ書類ハ其所屬官署ノ印ヲ用ヒ

年月日及ヒ場所ヲ記載シテ署名捺印シ毎葉ニ契印ス可シ

若シ官署ノ印ヲ用フルト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載ス可シ此規則ニ背キタル時ハ其書類ノ效ナカル可シ
 官吏ニ非サル者ノ作ル可キ書類ニハ本人自ラ署名捺印ス可シ若シ署名捺印スルト能ハサル時ハ官吏ノ面前ニ於テ作リタル場合ヲ除クノ外立會人代署シ其事由ヲ記載ス可シ
 シ部テ官吏ノ作ル書類ニハ其官署ノ印章ヲ捺シ年月日及ヒ場所ヲ記載シテ其官吏名ヲ器シテ自己ノ印章ヲ捺シ且毎業ノ綴目ニ契印スルハ若シ其官署出張中ニ書類ヲ作ルノ如ク官署ノ印ヲ用ユルハ其官署ノ印章ヲ捺シ且毎規則ニ背キタル書類ハ其效ナシトス○官吏ニ非サル者平人ノ作ル書類ニハ其本人自ラ署名捺印スルハ其效ナシトス○人自ラ署名スル由ヲ記載スルハ立會人代署シテ本人ノ捺シメシメ其事由ヲ記載スルハ但シ官吏ノ面前ニ於テ作ルルキ立會人ノ代署ヲ要セス

第二十六條

官吏其他何人ニ限ラズ訴訟ニ關スル書類ノ正本又ハ贖本ヲ作ルニ付キ文字ヲ改竄ス可カラズ若シ挿入

削除及ヒ欄外ノ記入アル時ハ之ニ認印ス可シ文字ヲ削除

スル時ハ之ヲ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存シ其數ヲ記載ス可シ

此規則ニ背キタル時ハ其變更増減ノ效ナカル可シ

書類ハ變造ノ恐アル時ハ以テ塗抹改竄ス可ラス若シ挿入削除及ヒ欄外ニ記入スル時ハ其書類ヲ作ル者一々之ニ認印シ又文字ヲ削除スルハ其書類ヲ減却セス後ヨリ記載シ得キ様ニ爲シ置キテ紙尾ニ其削除シタル文字ノ數ヲ記載シ置クハ此規則ニ背キタルハ都テ變更増減シタル效アル可ラス

第二十七條

此法律ニ於テ定メタル豫審又ハ公判ニ付テノ規則ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニモ亦之ヲ適用ス頒布以前ニ

爲シタル訴訟手續當時ノ法律ニ背カサル時ハ其效アリト

凡ソ法律ハ既往ニ溯ラサルヲ以テ原則ト爲セトモ訴訟手續ハ現ニ施行スル規則ニ從フヲ以テ法ト爲ス故ニ此治罪法施行以前ノ犯罪ト雖モ此施行後ニ訴訟審判ヲ爲ス者ハ其手續ハ此治罪法ニ依ルヘシ又此治罪法施行前已ニ訴訟ニ着手シタル者ハ此治罪法施行以前ニ爲シタル訴訟ノ手續當時ノ法律ニ背カサルハ其效アリト爲ス到底本條ハ第五條ト同一主義ニ

第二十八條 此法律ハ將來頒布ス可キ別段ノ法律ニ於テ豫
 審又ハ公判ノ手續ヲ定メタル犯罪ニモ亦之ヲ適用ス但其
 法律ニ抵觸スル規則ハ此限ニ在ラス

從前頒布シタル別段ノ法律ニ於テ豫審又ハ公判ノ手續ヲ
 定メタル犯罪ニ付テハ前項ノ例ニ在ラス
刑法ノ外別段ニ
 刑ヲ定メタル特

別法アリ此治罪法頒布以後ニ定メタル特別法ハ此治罪法ト
 比照シテ創立シタル者ナルヲ以テ其法律ニ抵觸スル規則ヲ
 除クノ外此治罪法ヲ適用スルハ從前頒布シタル別段ノ法律
 ニ於テ豫審又ハ公判ノ手續ヲ定メタル犯罪ニハ此治罪法ヲ
 適用スルヲ能ハス

第二十九條 此法律ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ處分ス可
 キ者ニ適用スルヲ得ス
陸海軍ノ刑律ハ全ク特別ノ法律ナ
 ルハ勿論ナリ

第三十條 此法律ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法第百十四條第
 百十五條ノ例ニ從フ
此治罪法ニテ單ニ親屬ト稱スル者ハ刑
 法第百十四條第百十五條ニ掲ケタル者
 ナ云フナリ此解ハ刑法ニ在ルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

第二編 刑事裁判所ノ構成及ヒ權限 前編已ニ總則ヲ終リ

事裁判所ノ構成即チ組立方ト管轄權限トヲ定メタル者ナリ

第一章 通則 通則ハ此一編全體ニ通用ユヘキ總規則ナ

第三十一條 通常刑事ノ裁判權ハ民事ノ裁判權ト同一ノ裁

判所ニ屬ス 刑事ノ裁判ト民事ノ裁判トハ各別ノ裁判所ニ於

シテ故ニ刑事裁判所ノ裁判官モ民事裁判所ノ裁判官モ同一

ニテ時々交代シ只民事裁判所ノ課ヲ分ツノニ山テ觀ルレモ呼ハ猶

ホ刑事裁判所ノ名稱アルカト謂フ之ニ○特別裁判所即チ陸海

軍裁判所ハ只刑事ノ限ニ非ラスニテ民事ヲ裁判スルノ陸海權

第三十二條 裁判所ノ位置及ヒ管轄ノ區劃ハ司法卿ノ奏請

ニ因リ上裁ヲ以テ之ヲ定ム 裁判所ヲ設置スル場所及ヒ管轄

ニ因リ上裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 裁判所ニハ檢察官一名又ハ數名ヲ置ク 檢察官

ノ名代人トナリテ國ノ安寧ヲ保護スルノ職任ナル者ニテ特
 刑事ニ於テハ原告ハトナリテ職員ナリテ行フ者ナレバ特
 大ニハ相異ナル所カアル職員ナリテ行フ者ナレバ特
 等ノ裁判所ト雖モ上者アリ裁判官ハ皆獨立シテ相連セズト
 總檢察官ハ一體ト視做シ相連シテ職務ヲ行フ者ナレバ特
 檢察官ハ下等ノ檢察官ヲ指揮スルモ其上等ナル裁判所ノ
 體ト視做スナリ扱フ等檢察官ハ多數ナルモ總檢察官ノ
 體ト視做スナリ扱フ等檢察官ハ多數ナルモ總檢察官ノ

第三十四條 刑事ニ付キ檢察官ノ職務左ノ如シ

- 一 犯罪ヲ搜查ス
- 二 犯罪ニ付キ取調ノ處分及ヒ法律ノ適用ヲ裁判官ニ請求ス
- 三 裁判所ノ命令及ヒ言渡ノ執行ヲ指揮ス
- 四 裁判所ニ於テ公益ヲ保護ス

民事ニ付テ檢察官ノ職務ハ本條ニ之ヲ説カス本條ニ於テハ
 唯刑事ニ付テ檢察官ノ職務ノミヲ示シタリ○犯罪ヲ搜查ス

九十二條ニ定メタル如ク證憑及ヒ犯人ヲ搜查スルヲ豫
 犯取調ニ求ムルコトヲ云フ法律ノ適用ヲ檢察官ニ請求スル
 審人ヲ刑ニ求ムルコトヲ云フ法律ノ適用ヲ檢察官ニ請求スル
 犯及ヒ裁判官ニ求ムルコトヲ云フ法律ノ適用ヲ檢察官ニ請求スル
 令及ヒ裁判官ニ求ムルコトヲ云フ法律ノ適用ヲ檢察官ニ請求スル
 保護スルコトヲ云フ法律ノ適用ヲ檢察官ニ請求スル
 行及ヒ傍聴ヲ禁止シ法式ヲ履行スル事等ニ付キ公益ヲ保護

第三十五條 檢察官一名ハ公廷ニ立會フ可シ

ハ公廷ヲ開クコトヲ得ス

第三十六條 裁判所ニハ書記一名又ハ數名ヲ置ク

シタル事ハ之ヲ書記シテ保存セシムルコト能ハサル可カラズ而テ裁
 判官ハ審問シ且ツ之ヲ筆記スルコト能ハサル可カラズ而テ裁
 判官ハ審問シ且ツ之ヲ筆記スルコト能ハサル可カラズ而テ裁
 判官ハ審問シ且ツ之ヲ筆記スルコト能ハサル可カラズ而テ裁
 判官ハ審問シ且ツ之ヲ筆記スルコト能ハサル可カラズ而テ裁

第三十七條 書記ハ豫審及ヒ公判ニ立會ヒ調書公判始末書

其他訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ作ル可シ
 又裁判言渡書其他一切ノ書類ヲ保存ス可シ
 豫審及ヒ公判

ノ席ニ立會ヒ調書公判始未書其他呼出狀等訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ作ルコトヲ掌ル故ニ書記ノ立會ナケレハ公廷ヲ開クコトヲ得ス又書記ハ裁判言渡書其他一切ノ書類ヲ保存スルコトヲ掌ル

第三十八條 犯罪ノ種類ニ因リ裁判管轄ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 違警罪ハ違警罪裁判所

二 輕罪ハ輕罪裁判所

三 重罪ハ重罪裁判所

重罪及ヒ輕罪又ハ輕罪及ヒ違警罪ニ付キ同時ニ同一ノ被告人ニ對シ訴アリタル時ハ附帶ノ犯罪ニ非スト雖モ上等

ノ裁判所併セテ之ヲ管轄スル裁判官ノ權限ヲ定

内ニテハ職權ヲ行フコトヲ得レハ區域ヲ超エテ裁判官ハ其區域ヲ得ス○裁判管轄ニ種々アリ第一區域ヲ超ヒテ職權ヲ行フコトヲ得ス○裁判管轄ニ種々アリ第一區域ヲ超ヒテ職權ヲ行フコトヲ得ス○裁判管轄ニ種々アリ第一區域ヲ超ヒテ職權ヲ行フコトヲ得ス

質ニ管スル裁判管轄是レナリ本條ハ第二ナル犯罪ノ種類ニ管スル裁判管轄ノ事ハ後條各所ニ於テ自ラ分明ナル者ニテ其餘ノ裁判管轄ノ事ハ輕罪ハ輕罪裁判所ノ管轄トシ重罪ハ重罪裁判所ノ管轄トシ違警罪ハ違警罪裁判所ノ管轄トス然レハ同一ノ被告ノ對シ同時ニ重罪ハ重罪裁判所ノ管轄トシ輕罪ハ輕罪裁判所ノ管轄トス事ハ次條ニ於テ之ヲ説ク

第三十九條 左ノ場合ニ於テハ附帶ノ犯罪ナリトス

一 同一ノ場所ニ於テ同時ニ一人又ハ數人ニテ數罪ヲ犯シタル時

二 數人通謀シテ日時又ハ場所ヲ異ニシ數罪ヲ犯シタル時

三 自己又ハ他人ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ其罪ヲ免カ

ル爲メ他ノ罪ヲ犯シタル時 前條ニ附帶ノ犯罪ニ非スル爲メ他ノ罪ヲ犯シタル時 前條ニ附帶ノ犯罪ニ非スル爲メ他ノ罪ヲ犯シタル時 前條ニ附帶ノ犯罪ニ非スル爲メ他ノ罪ヲ犯シタル時 前條ニ附帶ノ犯罪ニ非スル爲メ他ノ罪ヲ犯シタル時

八アルハ第八十三條ニ依リ高等法院併テ之キ者ト其罪ヲ陸海軍裁
判所ニ於テ裁判スルニ付本條ノ例外ナリトモ亦特別ノ法律ヲ
以テ其管轄ヲ定ムルニ付

第四十五條 外國ニ在テ犯シタル罪日本國ノ法律ニ依リ處
斷ス可キ者ニシテ内地ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル時ハ逮
捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス又外國ヨリ送致シ

タル時ハ送致ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス
關席裁判ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ被告人最終住所ノ地ノ

裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス其住所分明ナラサル時ハ裁
判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲ス可シ

キ者ナル時ハ日本國ニテ其被告人ヲ逮捕シタル地ノ裁判所
ヲ以テ其管轄裁判所トス若シ外國ヨリ其犯人ヲ送致シタル
時ハ送致ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄トス外國ニ在テ罪ヲ犯
シ其罪ヲ日本國ノ法律ニ依テ處斷スルハ如何ナル罪ヲ犯
シカ刑法治罪法ニハ其明文ナシ蓋シ別段ノ法律ヲ以テ之ヲ
定メタルナラバ○關席裁判ヲ爲スルハ別段ノ法律ヲ以テ之ヲ

人最終ノ住所ノ地ノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス若シ其住
所不分明ナルハ大審院ニ向テ管轄裁判所ト定ムルノ訴ヲ爲
スヘシ裁判管轄ヲ定ル訴ハ第四百四十八條以下ニ在リ

第四十六條 商船内ノ犯罪ニ付テノ管轄及ヒ訴訟手續ハ別
ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム 依リ商船内ノ犯罪ハ別段ノ法律ニ於
テ其裁判管轄及ヒ訴訟手續ヲ定ム

第四十七條 豫審ヲ爲シタル裁判官ハ其公判ニ干預ス可カ
ラス前ニ豫審又ハ公判ヲ爲シタル裁判官ハ哀訴及ヒ關席

裁判ニ對スル障故ヲ除クノ外其上訴ノ裁判ニ干預ス可カ
ラス此規則ニ背キタル時ハ其言渡ノ效チカル可シ

付テ判決ヲ下シタル者ハ概テ前説ヲ固執シテ衡平無偏ノ點
ニ至リ難シ故ニ豫審ヲ爲シタル裁判官ハ其公判ニ干預スル
コトヲ許サス但シ關席裁判ニ對スル障故及ヒ哀訴ノ裁判ニ付
テハ裁官ニ裁判ヲ爲シタル裁判官之ニ干預スルコトヲ得可シ

第四十八條 裁判所ハ訴ヲ受ケタル事件ニ付キ自ラ其管轄

ナリヤ否ヲ判決スルノ權アリ其判決ニ付テハ本案ノ事件
 終審ナル可キ場合ト雖モ通常ノ規則ニ從ヒ檢察官其他訴
 訟關係人ヨリ上訴スルコトヲ得ニ付官ハ其訴ヲ受ケタル事件
 定スルノ權アリ故ニ自己ノ管轄ニ非ラスト思フハ其管轄ノ
 其旨ヲ申渡シ又管轄違フモノ申立テ棄却スルコト得ルハ
 思量シテ控訴又ハ其申立テ爲スルコト得ルハ其管轄ノ
 人ヨリテ終審ノ場合ト雖モ云々トアルハ其本案ノ事件ハ
 審ナル可キ場合ト雖モ云々トアルハ其本案ノ事件ハ
 所ニ於テ終審ノ裁判ヲ爲スルコト得ルハ其管轄ノ
 則ニ從ヒ控訴ヲ爲スルコト得ルハ其本案ノ事件ハ

第二章 違警罪裁判所

第四十九條 治安裁判所ハ違警罪裁判所トシテ其管轄地内
 ニ於テ犯シタル違警罪ヲ裁判スル權ハ民事ノ裁判權ト同一
 民事ノ裁判所ニ屬スル旨ヲ説キタリ即チ本條ハ刑事ノ裁判
 民事ノ裁判權ト同一ナル趣意ヨリ出タル者ナリ治安裁判所
 裁判スル者ナリ此裁判所ハ又違警罪裁判所トシテ其管轄地内

第五十條 違警罪裁判所判事ノ職務ハ治安裁判所判事ノ
 行フ
 判事差支アル時ハ判事補其職務ヲ行フ
 判所判事ノ職務即チ裁判ヲ爲スル職務ハ治安裁判所判事ノ
 行フ又判事ニ差支アルハ判事補其職務ヲ行フ

第五十一條 違警罪裁判所檢察官ノ職務ハ其裁判所々在ノ
 地ノ警部之ヲ行フ
 違警罪ハ事件微小ナルヲ以テ別ニ檢察官ノ職務ヲ
 行ハシム

第五十二條 違警罪裁判所檢察官ハ每月未決既決ノ事件表
 ナ作り輕罪裁判所檢察官ニ差出ス可シ
 事件表ニハ違警罪裁判所判事認印シ且意見アル時ハ之ヲ
 附記ス可シ
 事件ノ多少事務ノ遲速ヲ知ラシメテ輕罪裁判官

所檢事ニ差出サシム其事件表ニハ判事認印シテ意見アル時
ハ其意見ヲ附記ス可シ意見トハ事件多數ナルニ由テ事務淹
滞セリト云フノ類ナリ

第五十三條 違警罪裁判所書記ノ職務ハ治安裁判所書記之
ヲ行フ以テ違警罪裁判所判事ノ職務ハ治安裁判所判事之ヲ行フ
待タス

第三章 輕罪裁判所

第五十四條 始審裁判所ハ輕罪裁判所トシテ其管轄地内ニ

於テ犯シタル輕罪ヲ裁判ス
又重罪及ヒ輕罪ノ豫審ヲ行フ

又其管轄地内ノ違警罪裁判所ノ始審ノ裁判ニ對スル控訴

ヲ裁判ス
本條モ第四十九條ト同一主義ニテ民事始審裁判所
ハ刑事ノ輕罪裁判所トナリテ其管轄地内ノ輕罪ヲ
裁判スルコトヲ謂フナリ○輕罪裁判所ハ豫審判事ナル者
リテ重罪及ヒ輕罪ノ豫審ヲ行フ又其管轄地内ノ違警罪
裁判所ノ始審ノ裁判ニ不服ヲ唱ヘテ控訴スル者ヲ裁判ス

第五十五條 輕罪裁判所判事ノ職務ハ裁判所長ヨリ始審裁

判所判事一名又ハ數名ニ順次滿一年間之ヲ命ス

又滿一年間更ニ其職務ヲ繼續セシムルヲ得
凡ソ裁判官

ハ取扱ハシムルハハ猛ニ流シ民事トミテ取扱ハシムルハ
寛ニ流シ易シ故ニ順次刑事ト民事ト取扱ハシムルハ
ニテ調和スルヲ可トス是レ民事ノ裁判官ヲシテ順次滿一年間
ヲ限リテ刑事ノ裁判官ヲシテ民事ノ裁判官ヲシテ又都合ニヨリ更
ニ滿一年間其職務ヲ繼續セシムルヲ得即チ通計二年間刑
事ヲ取扱ハシムルヲ得レヒ必ス二年ヲ過ルヲ得ス

第五十六條 豫審判事ノ職務ハ司法卿ヨリ始審裁判所判事
一名又ハ數名ニ滿一年間之ヲ命ス

又滿一年以上其職務ヲ繼續ス可キヲ命スルヲ得
豫審判

強活潑ナル者ニ非サレハ其職務ヲ行ヒ難シ是故ニ順次交代
セシムルヲナリ司法卿ヨリ始審裁判所判事ノ中ニテ壹名又
ハ數名ニ滿一年間之ヲ命ス又都合ニヨリテハ滿一年以上何
年ニテモ其職務ヲ繼續セシムルヲ得
第五十七條 判事差支アル時ハ其他ノ判事又ハ判事補其職

官檢察官又ハ裁判官ヨリ犯罪取調ノ爲メ其管轄地内ニ於テ
テ證據其他事實參考ト爲ル可キ事物ヲ集取ス可キノ囑託
ヲ受クル事アル可シ官吏ハ各其管轄ヲ越テ職務ヲ行フニ
能ハサルニヨリ管轄地外ニ於テ證據其
他事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ集取ス可キ時ハ之ヲ其地ノ管
轄官吏ニ囑託ス可シ其囑託ヲ受タル官吏ハ固ヨリ其囑託ニ
應モサルヲ得ス

第六十二條 檢事ハ二月毎ニ豫審及ヒ公判ノ未次既決ノ事
件表ヲ作り控訴裁判所檢事長ニ差出ス可シ

又違警罪裁判所檢察官ヨリ差出シタル事件表ヲ同時ニ檢
事長ニ差出シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

事件表ニハ裁判所長認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可
シ輕罪裁判所檢事ハ毎月未決既決ノ事件表ヲ作り第五十二條
ニ定メタル通り違警罪裁判所ヨリ受取りタル事件表ト共ニ
控訴裁判所ノ檢事長ニ差出ス可シ

第四章 控訴裁判所

第六十三條 控訴裁判所ニ刑事局ヲ置キ輕罪裁判所ノ始審

ノ裁判ニ對スル控訴ヲ裁判ス但其裁判ハ判事三名以上ニ
テ之ヲ爲ス可シ控訴裁判所ハ今ノ上等裁判所ナリ此控訴裁
判所ニ對スル控訴ヲ裁判スル者ヲ置キ輕罪裁判所ノ始
審ノ裁判ヲ以テ違警罪裁判所ニ於テハ判事一名ニテ裁判
行ハサルヲ得ス輕罪裁判所ハ判事一名ニテ裁判
判ヲ行フモ可ナリ控訴裁判所ノ判事一名ニテ判事三名以
上列席ニテ公庭ヲ開キ說ノ多數ニ由テ判決ヲ行フ

第六十四條 刑事局判事ノ職務ハ裁判所長ヨリ其裁判所判
事數名ニ順次滿二年間之ヲ命ス

又滿一年間更ニ其職務ヲ繼續セシムルヲ得刑事局判事
ノ職務ハ輕
罪裁判所ト同ク其控訴裁判所判事ニ順次一年間ツ之ヲ命
ス又都合ニヨリ更ニ滿一年間其職務ヲ繼續セシムルヲ得

第六十五條 刑事局判事差支アル時ハ裁判所長ヨリ民事局

判事ヲシテ其職務ヲ行ハシム

裁判所長ハ何時ニテモ裁判長ト爲ルヲ得刑事局判事ニ差
裁判所長ヨリ民事局ノ判事ニ命シ代テ之ヲ行ハシム○裁判
所長ト行フ三名ノ長ナリ裁判所長ハ其裁判所ノ長ナリ裁
判ヲ得ルニ付裁判所長ハ其裁判所ノ長ト爲ラシム○裁
判長ハ先任判事ヲ以テ之ニ充ルカ又ハ裁復所長ノ意見ヲ以
テ之ヲ任スルカハ別段ノ規則ヲ以テ之ヲ定メラルヘシ

第六十六條 刑事局檢察官ノ職務ハ其裁判所檢察長又ハ其

指名シタル檢察官ノ行フ控訴裁判所ニハ通常ノ檢察官ノ職務ハ
事長又ハ其檢察官ノ指名シタル檢察官ノ行フ

第六十七條 檢察長ハ其裁判所ノ管轄地内ニ於テ輕罪裁判
所檢察官ニ屬スル司法警察及ヒ起訴ノ職務ヲ行ヒ又ハ其所
屬ノ檢察官シテ之ヲ行ハシムルヲ得

又起訴及ヒ其他ノ職務ニ付キ其管轄地内ノ檢察官ニ告達
スルヲアル可シ

檢察長ハ其管轄地内ノ檢察官及ヒ司法警察官ヲ監督ス
裁判所ノ檢察官ハ其裁判所管轄地内ノ檢察官ノ長ナルヲ以テ通
輕罪裁判所ノ檢察官ハ其管轄地内ノ檢察官ノ長ナルヲ以テ通
サルカ如キアレハ親ラ之ヲ行ヒ又ハ其控訴裁判所ノ檢察官
シテ之ヲ行ハシムルヲ得又起訴其他ノ事ニ付其管轄地内ノ
檢察官ニ命令告達ヲ爲スヲ監督シ是等ノ者若シ過失アルハ
警察官及ヒ司法警察官ヲ監督シ是等ノ者若シ過失アルハ
警察官及ヒ司法警察官ヲ監督シ是等ノ者若シ過失アルハ
官及ヒ府知事縣令ト雖モ司法警察官ノ事務ニ付テハ亦檢察
ノ監督ヲ受ケサルヲ得ス

第六十八條 檢察長ハ三月毎ニ豫審及ヒ公判ノ未決既決ノ

事件表ヲ作り司法卿ニ差出ス可シ
又輕罪裁判所檢察官ヨリ差出シタル事件表ヲ同時ニ司法卿
ニ差出シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

事件表ニハ裁判所長認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

第六十九條 刑事局書記ノ職務ハ其裁判所書記之ヲ行フ兩條ハ別ニ解釋ヲ要セス

第五章 重罪裁判所

第七十條 重罪裁判所ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル重罪ヲ裁判ス 重罪裁判所ハ重罪ヲ裁判スル所ナリ

第七十一條 重罪裁判所ハ三月毎ニ之ヲ開ク

若シ事件夥多ナル時ハ控訴裁判所長及ヒ檢事長ヨリ司法卿ニ具申シ其許可ヲ得テ臨時開廳スルヲ得 重罪裁判所開廳スル者ニ非ラス毎午四回三月毎ニ一度之ヲ開ク者ナリ若シ事件夥多ニシテ次ノ開廳ノ期ヲ待ツルハ事件淹滞ノ恐アリト見込メハ控訴裁判所長及ヒ檢事長ヨリ司法卿ニ具申シ其許可ヲ得テ臨時開廳スルヲ得

第七十二條 重罪裁判所ハ控訴裁判所又ハ始審裁判所ニ於テ之ヲ開ク 重罪裁判所ハ控訴裁判所ノ在ル地ニ於テハ控訴始審裁判所内ニ之ヲ開ク

第七十三條 重罪裁判所ハ左ノ職員ヲ以テ裁判ヲ爲ス可シ

一 裁判所長一名但控訴裁判所長ヨリ其裁判所判事ニテ之ヲ命ス

二 陪席判事四名但控訴裁判所ニ於テ開ク時ハ裁判所長ヨリ其裁判所判事ニテ之ヲ命シ始審裁判所ニ於テ開ク時ハ其裁判所長及ヒ先任ノ判事ヲ以テ之ニ充ツ 重罪裁判所ハ

裁判所長一名陪席判事四名都合五名ノ判事ヲ以テ裁判ヲ行フ陪席判事ハ控訴裁判所長其控訴裁判所判事ニテ之ヲ命ス陪席判事ニテ之ヲ命シ始審裁判所ニ於テ開ク時ハ其裁判所長及ヒ先任判事ヲ以テ之ニ充ツ

第七十四條 重罪裁判所檢察官ノ職務ハ控訴裁判所檢事長
又ハ其指名シタル檢事之ヲ行フ

始審裁判所ニ於テ開ク時ハ檢事長ヨリ始審裁判所檢事ヲ
シテ其職務ヲ行ハシムルヲ得重罪裁判所檢察官ノ職務ハ
控訴裁判所檢事長之ヲ行フ
可シト雖此時宜ニヨリ其附屬ノ檢事ヲシテ之ヲ行ハシメ又
始審裁判所ニ於テ之ヲ開ク時ハ其始審裁判所ノ檢事ヲシテ
之ヲ行ハシムルヲ得可シ

第七十五條 重罪裁判所書記ノ職務ハ開廳ス可キ裁判所ノ

書記之ヲ行フ書記ノ職務ハ格別緊要ナル者ニ非サルヲ以テ
其重罪裁判所ヲ開ク裁判所ノ書記之ヲ行フ

第七十六條 控訴裁判所檢事長ハ開廳ノ後既決事件表ヲ作
リ司法卿ニ差出ス可シ

事件表ニハ控訴裁判所長認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記
ス可シ控訴裁判所檢事長ハ重罪裁判所ノ閉廳シタル後ニ既決事件
カ故ニ其管内ノ重罪裁判所ノ閉廳シタル後ニ既決事件

表ヲ作りテ司法卿ニ差出ス可シ

第六章 大審院

第七十七條 大審院ニ刑事局ヲ置キ左ノ條件ヲ裁判ス

- 一 上告
- 二 再審ノ訴ワツクハ
- 三 裁判管轄ヲ定ムルノ訴

四 公安又ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴大審院ニ民事
局ト刑事局ト

ヲ置キ刑事局ニ於テハ上告再審ノ訴裁判管轄ヲ定ムルノ事
公安又ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ裁判ス是等ノ事
ハ第五編大審院職務ノ部ニ於テ説ク可シ

第七十八條 刑事局ニ於テハ判事五名以上ニ非サレハ裁判
ヲ爲ス可カラズ大審院刑事局ニ於テハ判事五名以上ニ非サ
レハ裁判ヲ爲スヲ得ス

第七十九條 刑事局判事ノ職務ハ司法卿ノ奏請ニ因リ其院

判事ニ之ヲ命ス

判事差支アル時ハ民事局判事授任ノ順序ニ從ヒ其職務ヲ行フ
刑事局判事ノ職務ハ司法卿ノ奏請ニ因リ其院判事ニ之ヲ命ス
若シ判事差支アル時ハ民事局判事其職ヲ授任セラルル日ノ順序ニ從テ其職務ヲ行フ

第八十條 刑事局檢察官ノ職務ハ其院檢察長又ハ其指名シタル檢事之ヲ行フ

第八十一條 刑事局書記ノ職務ハ其院書記之ヲ行フ

第八十二條 檢事長ハ三月毎ニ豫審及ヒ公判ノ未決既決ノ事件表ヲ作り司法卿ニ差出ス可シ
事件表ニハ院長認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ
此三條ハ別ニ説ク可キコトナシ

第七章 高等法院

第八十三條 高等法院ニ於テハ刑法第二編第一章第二章ニ記載シタル重罪ヲ裁判ス

又皇族ノ犯シタル重罪及ヒ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ヲ裁判ス

又勅任官ノ犯シタル重罪ヲ裁判ス

前二項ニ記載シタル者ノ正犯及ヒ從犯ハ身分ノ如何ヲ問ハス其院ニ於テ之ヲ裁判ス
皇室ニ對スル罪及ヒ國事犯罪又ハ被告ノ高貴ノ者ナルモハ通常ノ裁判所ニテハ五分至當ノ處置ヲ施シ難キノ事恐ナキモ非ラヌ故ニ別段高等法院ナル者ヲ置テ是等ノ事件ヲ審判セシム
皇族トハ天皇陛下ノ親族ヲ謂フ
天皇皇后皇太子皇族及ヒ勅任官トモモ刑ヲ加フ可カラサルハ從犯ハ凡人タリトモ仍ホ高等法院ニ於テ之ヲ裁判ス是レ同一ノ事件ヲ二箇ニ分テ裁判スルハ甚ク不便ナルヲ以テナリ

第八十四條 高等法院ハ司法卿ノ奏請ニ因リ上裁ヲ以テ之

第九十條 被告事件夥多ナル時又ハ再審ノ訴ヲ裁判ス可キ時ハ新ニ職員ヲ命スルヲアル可シ

高等法院ニ於テ裁判ス可キ被告事件夥多ナル時ハ別ニ裁判官檢察官等ヲ命シテ之ヲ裁判セシメカラス又再審ノ訴ハ前ノ裁判官ニ委シ難キヲ以テ亦別ニ裁判官ヲ命ス可シ

第九十一條 高等法院ノ訴訟手續ハ通常ノ規則ニ從フ高等法院ノ訴訟手續モ亦通常ノ規則ニ依ル可シ

第三編 犯罪ノ搜查起訴及ヒ豫審

第一章 搜查

第九十二條 檢察官ハ後ニ記載シタル告訴發現行犯其他ノ理由ニ因リ犯罪アルヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタル時ハ其證憑及ヒ犯人ヲ搜查シ第百七條以下ノ規則ニ從ヒ起訴ノ手續ヲ爲ス可シ

檢察官ノ職務ト豫審判事ノ職務トハ密着ノ關係ヲ有スト雖モ亦判然區別アリ檢察官ノ職務ハ已ニ發シタル證據ノ端緒ヲ求メ訴訟ノ基礎ヲ造成シテ之ヲ裁官ニ付スルニ在リ是レ即チ搜查ノ基礎ヲ爲ス可シ

第一節 告訴及ヒ告發

第九十三條 何人ニ限ラス重罪輕罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地ノ豫審判事檢事又ハ司法警察官ニ告訴スルヲ得

豫審判事告訴ヲ受ケタル時ハ第四百十四條以下ノ規則ニ從ヒ其處分ヲ爲ス可シ

檢事告訴ヲ受ケタル時ハ第四百七條ノ規則ニ從ヒ其處分ヲ爲ス可シ

司法警察官告訴ヲ受ケタル時ハ速ニ其書類ヲ檢事ニ送致ス可シ

違警罪ニ付テハ犯罪ノ地ノ違警罪裁判所檢察官又ハ司法警察官ニ告訴スルヲ得其告訴ヲ受ケタル司法警察官ハ之ヲ違警罪裁判所檢察官ニ移ス可シ

告訴及ヒ告訴ノ區別ハ已ニ之ヲ説キタリ

何人ニテモ重罪又ハ輕罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ犯罪ノ地又ハ被告人所在ノ地ノ豫審判事又ハ司法警察官ニ告訴スルヲ得

豫審判事告訴ヲ受ケタル時ハ第四百七條ノ規則ニ從ヒ其處分ヲ爲ス可シ

檢事告訴ヲ受ケタル時ハ第四百七條ノ規則ニ從ヒ其處分ヲ爲ス可シ

司法警察官告訴ヲ受ケタル時ハ速ニ其書類ヲ檢事ニ送致ス可シ

違警罪ニ付テハ犯罪ノ地ノ違警罪裁判所檢察官又ハ司法警察官ニ告訴スルヲ得其告訴ヲ受ケタル司法警察官ハ之ヲ違警罪裁判所檢察官ニ移ス可シ

第九十四條 告訴人ハ成ル可ク其證據及ヒ事實參考ト爲ル可キヲ申立ツ可シ

又告訴人ハ第四百十條以下ノ規則ニ從ヒ民事原告人ト爲ルヲ得

民事原告人ト爲ル可キ事ハ民事原告人ト爲ル可キ事ニ依テ犯罪アリシトハ證據ト云フ程ニハ至ラズ

民事原告人ト爲ル可キ事ハ民事原告人ト爲ル可キ事ニ依テ犯罪アリシトハ證據ト云フ程ニハ至ラズ

第九十五條 告訴ハ告訴人ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之

一犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セラル、時

二兇器贓物其他犯人ト思料ス可キ物件ヲ携帯シタル時

三家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢證スル爲メ又ハ其犯人ト

思料ス可キ者ヲ逮捕スル爲メ戸主ヨリ官吏ニ其處分ヲ

求メタル時

第一ハ路上等ニ於テ人ニ犯罪人トナリト追呼セラル、
者ヲ謂フナリ此場合ニ於テハ逃走ト呼ビ追逐セラル、
料ス可キ景狀アルニ因リ現行犯トナリト追呼セラル、
器贓物其他犯人ト思料ス可キ物件ヲ携帯シタル時但シ兇
ニ劍銃物件ヲ携帶シタルニキテハ鮮ホテ現行犯ト爲ル可
テ動モルヲ要ス例ハ其刀劍ニ如キ奇怪ノ景狀アルニ至
テハ准現行犯ト爲ルハ逃ハセシムルカ如キ第三ノ人トシテ
犯シタル罪ニ付キ其家ノ戸主ヨリ檢證セシムルヲ求メテ
家宅内ニ於テ其犯人ト思料ス可キ者ヲ逮捕セシムルヲ檢
ル時ナリ此場合ニ於テハ現行犯トナリト追呼セラル、
ル處分ヲ急速ニ以テ現行犯ト爲ルハ急遽ノ處分ヲ概テ信
テハ准現行犯ト爲ルハ逃ハセシムルカ如キ第三ノ人トシテ

テハ○本條ニ謂フ所ノ者ハ重罪ト輕罪トニ限リ違警罪ニ於
テハ准現行犯ノ例ヲ用ユルコト能ハス

第二百二條 司法警察官及ヒ巡查其職務ヲ行フニ當リ重罪輕

罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル時ハ令狀又ハ命令ヲ待タス

シテ被告人ヲ逮捕ス可シ

違警罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル時ハ被告人ノ氏名住所

ヲ問ヒ之ヲ違警罪裁判所檢察官ニ告發ス可シ其氏名住所

分明ナラス又ハ逃亡ノ懸アル着ハ違警罪裁判所ニ引致ス

ルコトヲ得

又ハ命令ヲ待タズシテ直ニ其犯人ト思料シタル者ヲ逮捕ス
可シ○違警罪ノ被告人ハ逮捕スルコトヲ得サレバ檢察官ニ告
人ノ氏名住所ヲ問ヒ其氏名住所ヲ分明ナラス又ハ逃亡ノ懸
違警罪裁判所ニ引致スルコトヲ得

第二百三條 巡查被告人ヲ逮捕シタル時ハ速ニ司法警察

官ニ引致ス可シ

其被告人ヲ受取リタル司法警察官ハ逮捕及ヒ告發ニ付テ
ノ調書ヲ作ル可シ 前條ノ場合ニ於テ警察官ニ引渡ス可シ訊問
等ヲ行フコトヲ許サス其被告人ヲ受取リタル警察官ハ被告
人ヲ引致シタル巡査ノ供述ニ因リテ逮捕及ヒ告發ノ調書ヲ
作ル可シ此調書ハ被告人ト共ニ檢察官ニ差出ス可キ者ナリ

第四百四條 司法警察官被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタル

時ハ假ニ被告人ノ訊問及ヒ檢證處分ヲ爲ス可シ 現行犯ノ

テハ司法警察官假ニ訊問檢證等通常ノ場合ニ於テ豫審判事
ニ屬スル處分ヲ行フコトヲ得可シ(第二百五條參看)故ニ司法警
察官親ラ現行犯罪人ヲ逮捕シタルカ又ハ引致ヲ受ケタル時
ハ假ニ被告人ノ訊問及ヒ檢證處分ヲ爲ス可キナリ

第四百五條 何人ニ限ラス重罪輕罪ノ現行犯アル場合ニ於テ

ハ直チニ被告人ヲ逮捕スルコトヲ得何人ニテモ重罪輕罪ノ現
狀又ハ命令ヲ待タズ直ニ被告人ヲ逮捕スルコトヲ得可シト爲

第六百六條 前條ノ場合ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ

司法警察官ニ引致ス可シ若シ引致スルコトヲ得サル時ハ自
己ノ氏名職業住所及ヒ其逮捕ノ事由ヲ陳述シ假ニ之ヲ巡
査ニ引渡スコトヲ得

被告人ヲ巡査ニ引渡シタル時ハ速ニ告訴又ハ告發ヲ爲ス
可シ

被告人又ハ巡査ハ逮捕ヲ爲シタル者ニ對シ共ニ官署ニ至
ルコトヲ求ムルヲ得但逮捕ヲ爲シタル者ハ正當ノ事由アル

ニ非サレハ其求ヲ拒ムコトヲ得ス 前條ノ場合ニ於テ被告人

察官吏ニ引致ス可シ若シ引致スルコトヲ得サル者ハ自ラ之ヲ警
己ノ氏名職業住所及ヒ其被告人ヲ逮捕シタル事由ヲ陳述シ
テ假ニ巡査ニ引渡スコトヲ得但シ巡査ニ引渡シタル時ハ遲滯
ナク告訴又ハ告發ヲ爲ス可シ○其逮捕セラレタル被告人又
ハ引渡シ得タル巡査ハ逮捕ヲ爲シタル者ニ對シ警察署ニ同
行セシメテ求ムル巡査ハ此場合ニ於テハ逮捕ヲ爲シタル者ニ

檢事ニ通知シ且証憑及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ送致シ
テ檢事ノ起訴ヲ待チ一日内ニ起訴アルハ固ヨリ豫審ノ處分
ヲ爲ス可ク若シ一日内ニ檢事起訴ヲ爲サハル時ハ速ニ被告
人ヲ放免ス可シ但シ唯起訴アラサルノ故ヲ以テ放免シタル
者ナレハ後日再訴ヲ爲スノ妨ケト爲ルコトナカル可シ

第一百六條

被告人所在ノ地ノ豫審判事直ニ告訴告發ヲ

受ケ又ハ檢事ヨリ其送致ヲ受ケ被告事件急速ヲ要スル時
ハ通常ノ規則ニ從ヒ被告人ノ訊問又ハ檢證處分ヲ爲シタ
ル後證憑及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ犯罪ノ地ノ豫審
判事ニ送致ス可シ

若シ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト思料シタル時ハ勾留狀

ヲ以テ被告人ヲ送致スルコトヲ得第九十三條第九十七條

ノ地ノ豫審判事直ニ告訴又ハ被告事件急速ナル時又ハ檢事
ヨリ被告事件ヲ送致セラレタル時其事件急速ナル時又ハ
爲シタル後之ヲ犯罪ノ地ノ豫審判事ニ送致ス可シ檢證處分

ノ地ノ豫審判事ハ管轄裁判官ナレハナリ○其被告人禁錮以
上ノ刑ニ該ル可キ者ト思料シタル時ハ勾留狀ヲ以テ之ヲ勾
留シテ送致スルコトヲ得可シ

第一百七條

檢事ハ豫審中何時ニテモ豫審判事ニ請求シテ

訴訟書類ヲ檢閱スルコトヲ得但二十四時内ニ之ヲ還付ス可

シ

又必要ナリトスル處分ニ付キ臨時其請求ヲ爲スコトヲ得

ハ公訴ノ原告人ナルヲ以テ豫審ノ模様ヲ知レノ權アリ故ニ
豫審中何時ニテモ豫審判事ニ請求シテ訴訟書類ヲ受取リテ
覽閱スルコトヲ得然レモ檢事職務淹滞ノ恐アルヲ以テ二十
四時内ニ還付セサルコトヲ得又檢證訊問ノ處證人等ノ付必
要ナリト思料スルコトハ臨時豫審判事ニ其處分ヲ請求スル
コトヲ得

第一節 令狀

第一百八條 豫審判事ハ檢事又ハ民事原告人ノ起訴ニ因リ

重罪輕罪ノ事件ヲ受理シタル時ハ被告人ニ對シ先ツ召喚

狀ヲ發ス可シ但召喚狀ノ送達ト被告人出廷トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫アル可シ

召喚狀ニ因リ出廷シタル被告人ハ即時ニ之ヲ訊問ス可シ又遅クトモ出廷ノ日ヲ過クルトテ得ス

所ノ命令狀ナリ合狀ニ四アリ召喚狀ト曰ヒ何引狀ト曰ヒ勾留狀ト曰ヒ收監狀ト曰ヒ今本條以下ニ於テハ此四箇ノ令狀ヲ說ク可シ豫審判事檢事又ハ民事原告人ノ起訴ニ因リ重罪又ハ輕罪事件ヲ受理シタル時ハ必ス先ツ召喚狀ヲ發ス可シ召喚狀ハ被告人ノ用意トシテ隨意ニ出廷セシムル者ナリ且被告人ハ召喚狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫ヲ與フ可シ又如何ナル事故アリトモ其出廷ノ日ヲ過ルルヲ得ス是レ大ニ被告人ヲ保護スル所以ナリ

第百十九條

豫審判事ハ召喚狀ヲ受ク可キ被告人其管轄地内ニ住セサル時ハ訊問ス可キ條件ヲ明示シテ被告人所在ノ地ノ豫審判事ニ其處分ヲ囑託ズルヲ得

眞ノ犯人ナルヤ否知ル可ラサル被告人ヲ遠方ヨリ召喚スルハ大ニ被告人ノ不利ナルヲ以テ他ノ管轄地内ニ住スル被告人ハ訊問ス可キ條件ヲ明示シテ被告人所在ノ地ノ豫審判事ニ其處分ヲ爲シテ之ヲ囑託ヲ爲シタル豫審判事ニ報告ス可シ

第百二十條

豫審判事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサル時ハ勾引狀ヲ發スルヲ得

召喚狀ヲ受ケタル被告人其召喚狀ニ定メタル日時ニ出廷セサル時ハ是レ被告人自ラ官命ニ抗シ最モ早召喚狀ヲ發スルモ其益ナキニヨリ公ノ力ヲ用ヒ強テ之ヲ引致セサルヲ得被告ハ勾引狀ヲ發スルヲ得ルナリ勾引

第百二十一條

豫審判事ハ左ノ場合ニ於テ直チニ勾引狀ヲ發スルヲ得

- 一 被告人定リタル住所アラサル時
- 二 被告人罪證ヲ漂滅シ又ハ逃亡スルノ恐アル時
- 三 被告人未遂罪又ハ脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂ケント

ヲ引狀ヲ發シタル豫審判事ニ通知シ其意見ヲ聽キ被告
 人ヲ放免シ又ハ前ニ發シタル引狀ヲ以テ管轄豫審判事
 ニ送致ス可キノ言渡ヲ爲ス可シ前條ノ場合ニ於テ其引狀
 發シタル豫審判事ニ其處分
 ヲ囑託シ又ハ前ニ發シタル被告ノ豫審判事ニ其處分
 ヲ送致ス可キヲ求ム可シ○被告ノ豫審判事ニ其處分
 分ヲ囑託セラレタル豫審判事ニ其處分ヲ囑託シタル豫
 引狀ヲ發シタル豫審判事ニ其處分ヲ囑託シタル豫
 ト見込ムハ之ヲ放免シ猶ホ取調フ可キ者ト見込ムハ前
 事ニ發シタル引狀ヲ以テ管轄豫審判事ニ送致ス可キノ言渡
 爲ス可シ

第二百二十五條 豫審判事ハ召喚狀又ハ引狀ヲ受ケタル被
 告人疾病其他正當ノ事由アリテ令狀ニ應スル能ハサルコ
 事ニ訊問ノ事ヲ囑託ス可シ召喚狀ヲ受ケタル被告ノ重病ニ
 罹ルカ又ハ父母妻子ノ重病ニ

得若シ被告人其管轄地外ニ在ル時ハ其所在ノ地ノ豫審判
 事ニ訊問ノ事ヲ囑託ス可シ

第二百二十六條 引狀ハ被告人逃亡シ又ハ第二百二十三條ノ
 場合ヲ除ク外被告人ヲ訊問シタル後禁錮以上ノ刑ニ該
 ル可キ者ト思料スルニ非サレハ之ヲ發スルコトヲ得ス引狀ハ
 若干日間被告人ノ自由ヲ束縛シ置ク者ナルヲ以テ一應被告
 人ヲ訊問シタル後禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト思料スルニ
 非サレハ之ヲ發スルコトヲ得ス○被告人逃亡シタル禁錮
 以上ノ刑ニ該ルヘキ者ナレハ引狀ヲ發スルコトヲ得

第二百二十七條 豫審判事ハ引狀ヲ執行シタルヨリ十日ヲ
 過クル時ハ之ヲ收監狀ニ換ヘ若クハ第二百十九條ノ規則
 ニ從ヒ被告人ヲ責付ス可シ

檢事ハ被告人ヲ責付スルヲナク更ニ十日間之ヲ拘留ス可
 キヲ豫審判事ニ求ムルヲ得

 監狀ノ鄭重ナルカ如クナラサルニヨリ之ヲ以テ永ク被告
 人ヲ拘留ス可ラズ故ニ拘留狀ノ期限ヲ十日ト定メ十日ヲ過
 キテ有ル後ハ之ヲ収監狀ニ換フ可ク若シ猶ホ豫審判事ニ於
 テ檢事ノ無キ決スルヲ能ハサルハ第二十九條ノ規則ニ從テ
 檢事ハ更ニ十日間拘留ス可キヲ豫審判事ニ求ムルヲ得
 檢事ハ更ニ十日間拘留ス可キヲ豫審判事ニ求ムルヲ得

第二百二十八條 收監狀ハ既ニ取掛リタル豫審ノ手續ヲ檢事
 ニ通知シ且其意見ヲ聽キタル後ニ非サレハ之ヲ發スル

 ヲ得ス 収監狀ハ之ヲ拘留狀ニ比スレハ被告人ノ自由ヲ束縛
 以テ是迄取掛リタル豫審ノ手續ヲ檢事ニ通知シテ檢事ノ意
 見ヲ聽キタル後ニ非レハ之ヲ發スルヲ得ス但シ檢事ノ意
 見ハ豫審判事必シモ之ニ從フ可キノ義務ナシ只其意見ヲ聽
 テ斷定スルヲ要スルノミ

第二百二十九條 收監狀ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ
 一 被告事件ノ概略及ヒ加重減輕ノ模様アル時ハ其概略

二 其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條
 三 檢察官ノ意見ヲ聽キタルヲ

収監狀ニ被告事件ノ概略加重減輕ノ模様ト其罪ヲ罰ス可キ
 法律ノ正條トヲ記載スルハ其有罪タルヲ表シ輕率ニ發セ
 記載スルハ前條ノ如ク檢察官ノ意見ヲ聽クヲ要スルハナ
 リ

第三百十條 總テ令狀ニハ被告事件及ヒ被告人ノ氏名職業
 住所ヲ記載ス可シ但召喚狀ヲ除クノ外其氏名分明ナラサ

 ル時ハ容貌體格等ヲ明示ス可シ
 又令狀ニハ之ヲ發スルノ年月日時ヲ記載シ豫審判事及ヒ
 書記署名捺印ス可シ

句引狀句留狀收監狀ハ巡查ヲシテ之ヲ執行セシム

 總テ令
 告事件ヲ記載スルハ被告ハシメテ何事ニヨリテ召喚又ハ被
 留セラル、ヤチ知ラシメノカ爲メナリ氏名住所職業ヲ記載

スルハ人違ナカシメノカ爲メナリ但シ召喚狀ヲ除ク外
其氏名分明ナラサル時ハ容貌體格等ヲ明示シテ足リトス
蓋シ召喚狀ハ被告人ノ住所ニ送達スヘキ者ナレハ其氏名ヲ
知ルコトヲ要シ勾引狀勾留狀收監狀ハ被告人ノ身體ニ對シテ
執行スル者ナレハ其體格等ヲ以テ足レリトスルナリ○勾引
狀勾留狀ハ所謂公力士ナル者ナリ

第三百三十一條 召喚狀ハ第二十三條ノ規則ニ從ヒ書記局所
屬ノ使丁ヲシテ被告人又ハ其住所ニ之ヲ送達セシム

被告人自由ニ出廷スルコトヲ促ス者ニテ強力ヲ要セサルニ付
被査ヲ用ヒス第二十三條ニ定メタル規則ニ從ヒ書記局所屬
ノ使丁ヲシテ之ヲ送達セシム

第三百三十二條 勾引狀勾留狀收監狀ハ日本全國ニ於テ之ヲ
執行ス但時宜ニ因リ正本數通ヲ作り巡査數人ニ分付スル

コアル可シ
前項ノ令狀ヲ執行スルニハ被告人ニ正本ヲ示シ其贍本ヲ

下付ス可シ此場合ニ於テハ第二十三條第二項第四項ノ規

則ニ從フ 勾引狀勾留狀收監狀ノ效力ハ之ヲ發シタル豫審判
事ノ管轄地内ニ限ラス日本全國ヲ通シテ執行ス可
キ者トス又時宜ニ因リ正本數通ヲ作り巡査數人ニ分付シテ
諸方ニ派出セシムルコトアル可シ○勾引狀勾留狀收監狀ヲ執
行スルニハ其正本ヲ被告人ニ示シ其贍本ヲ被告人ニ下付シ

第三百三十三條 令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡査ハ被告人其家

宅若クハ他人ノ家宅ニ僑匿シタリト思料シタル時ハ其地
ノ戸長又其差支アル時ハ隣佑二名以上ノ立會ヲ求メ之ヲ
搜索ス可シ

巡査ハ被告人ヲ發見シタルト否トニ拘ハラス搜索調書ヲ
作り立會人ト共ニ署名捺印ス可シ

家宅搜索ハ日出前日没後之ヲ爲スコトヲ得ス 令狀ヲ執行ス
人自己ノ家宅又ハ他人ノ家宅内ニ僑匿シタリト思料スル時
ハ其地ノ戸長カ戸長差支アル時ハ隣人二員ノ立會ヲ要メテ

其家宅ヲ搜索ス可シ○家宅搜索ヲ爲シタル巡査ハ被告入ヲ
搜索シ得タルト否トニ拘ハラヌ搜索調書即チ始末書ヲ作リ
テ立會入ト共ニ署名捺印ス可シ是レ巡査ノ專横ヲ防ク所以
ナリ○夜中ハ人ノ安息ヲ妨害スルノ恐アルヲ以テ家宅搜索
ヲ爲スコトヲ許サズ此場合ニ於テハ被告入ノ逃亡ヲ防クノ取
締ヲ爲シテ夜ノ明ルヲ待ツ可キナリ

第三百三十四條

豫審判事ハ被告人他ノ管轄地内ニ僭匿シタ
ルコトヲ知り又ハ僭匿シタリト思料シタル場合ニ於テ被告

事件急速ヲ要スル時ハ巡査ニ令狀ヲ帶行セシムルコトヲ得
巡査ハ被告人所在ノ地ノ豫審判事檢事又ハ司法警察官ニ

令狀ヲ示シテ即時ニ執行ヲ求ム可シ被告入他管下ニ逃亡
告事件急速ヲ要スル時ハ巡査ニ命ジテ令狀ヲ其他管下ニ帶
行セシムルコトヲ得サレトモ巡査ハ他管下ニ行テ其職務ヲ行

司法警察官ニ其令狀ヲ示シテ即時ニ執行ヲ求ム可シ其求
受タル豫審判事檢事司法警察官ハ即時ニ之ヲ執行ス可キハ
勿論ナリ

第三百三十五條

豫審判事ハ被告人所在ノ地ヲ覺知スルコト能

ハサル時ハ各控訴裁判所檢事長ニ被告人ノ人相書ヲ送致
シ搜查及ヒ逮捕ヲ爲ス可キコトヲ請求スルヲ得

請求ヲ受ケタル檢事長ハ其管轄地内ノ檢事ヲシテ搜查及
ヒ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ被告入逃亡シテ其所在分明ナ

訴裁判所ノ檢事長ニ被告人ノ人相書ヲ送致シ搜索捕縛ヲ請
求ス可シ其請求ヲ受ケタル檢事長ハ其管轄地内ノ檢事ヲ請
テ其處分ヲ爲サシム可シ

第三百三十六條

陸海軍在營ノ軍人軍屬ニ對シ令狀ヲ發シタ

ル時ハ所屬長官ニ令狀ヲ示ス可シ長官ハ已ムコトヲ得サル
差支アルニ非サレハ本人ヲシテ速ニ令狀ニ應セシム可シ

其行軍ノ際亦同シ陸海軍在營ノ軍人軍屬ハ已ムコトヲ得サル
官ニ令狀ヲ示シテ引渡ヲ請求ス可シ其長官ハ重大ノ事故止
ムコトヲ得サルノ差支アルニ非サレハ本人ヲシテ速ニ令狀ニ應
セシメサルヲ得ス其行軍ノ際モ亦同一ナリ

第三百三十七條 拘留狀又ハ收監狀ヲ受ケタル被告人ハ速ニ其令狀ニ記載シタル監倉ニ引致ス可シ若シ其監倉ニ引致スルヲ能ハサル時ハ假ニ最近ノ監倉ニ引致スルヲ得何レノ場合ニ於テモ監倉長ハ令狀ヲ檢閲シテ被告人ヲ受取り其證書ヲ渡ス可シ

拘留狀又ハ收監狀ヲ受ケタル被告人ハ其令狀ニ記載シタル所ノ監倉ニ引致ス可シ然レモ其指定シタル監倉ニ引致スルヲ能ハサル時ハ最近ノ監倉ニ引致スルヲ妨ケナシ

致ス可シ然レモ其指定シタル監倉ニ引致スルヲ能ハサル時ハ最近ノ監倉ニ引致スルヲ妨ケナシ

倉長ハ令狀ヲ檢閲シテ被告人ヲ受取り其證書ヲ渡ス可シ

第三百三十八條 令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡査ハ之ヲ執行シタルヲ又執行スルヲ能ハサル時ハ其事由ヲ令狀ノ正本ニ記載ス可シ

巡査ハ令狀執行ニ關スル書類ヲ書記局ニ差出シ書記ハ其受取證書ヲ渡ス可シ

令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡査ハ之ヲ執行シ了リタルヲ又被告人ノ所在不分明

ナル等ニ由テ之ヲ執行スルヲ能ハサル時ハ其事由ヲ令狀ノ正本ニ記載シテ其他令狀執行ニ關スル書類ト共ニ之ヲ書記局ニ差出シ書記ヨリ受取證書ヲ取ル可シ

宅捜索ノ調書ノ如キハ即チ令狀執行ニ關スル書類ナルヲ以テ此時書記局ニ差出ス可キ者ナリ

第三百三十九條 拘留狀又ハ收監狀ヲ受ク可キ被告人既ニ監倉若クハ獄舎ニ在ル時ハ書記ヨリ之ヲ本人ニ送達シ其旨ヲ正本及ヒ謄本ニ記載ス可シ

已ニ監倉又ハ獄舎ニ在ル所ノ被告人ニ拘留狀又ハ收監狀ヲ發スル時ハ巡査ヲシテ携帶セシムルヲ要セス書記ヨリ直ニ本人ニ送達シ其旨ヲ正本及ヒ謄本ニ記載ス可シ

第四百十條 密塞監禁ノ場合ヲ除クノ外被告人ハ監獄則ニ從ヒ官吏ノ立會ニ依リ其親屬故舊又ハ代言人ニ接見スルヲ得

書翰書籍其他ノ書類ハ豫審判事ノ檢閲ヲ經タル後ニ非サレハ被告人ト外人ト之ヲ授受スルヲ許サス但豫審判事

ハ其書類ヲ留置クヲ得
ノ場合ニテハ其親屬朋友代理人ト而會ス
ルハ監獄則ニ從ヒ官吏立會ノ書類ハ擅ニ被
告人ト外人ト授受ス
スルヲ檢閱シテ仔細ナシト見認メタル者ニ非
サレハ授受スル
トナサズ

第四百十一條

豫審判事ハ被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可
キ者ニ非スト思料シタル時ハ豫審中何時ニテモ勾留狀又

ハ收監狀ヲ取消ス可シ但收監狀ヲ取消ス時ハ豫メ檢察官

ノ意見ヲ聽ク可シ

前ノ刑ニ該ル可キ被告ハ收監狀ハ禁錮以

上ノ刑ニ該ル可キ被告ハ收監狀ハ禁錮以

上ノ刑ニ該ル可キ被告ハ收監狀ハ禁錮以

第四百十二條

監倉ニハ刑法治罪法ヲ備置キ被告人ノ請求
ニ從ヒ之ヲ貸與ス可シ

而シテ辯護ヲ爲スニハ法律ヲ知ラス

ノハアル可カラサルニヨリ監倉ニハ刑法治罪法ヲ備置キ被
告人ノ請求ニ從ヒ之ヲ貸與シテ覽讀セシム是レ亦大ニ被告
人ヲ保護スル所以ナリ

第二節 密室監禁

第四百十三條

豫審判事ハ豫審中事實發見ノ爲メ必要ナリ

ト思料シタル時ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ勾留

狀若クハ收監狀ヲ受ケタル被告人ヲ密室ニ監禁スルノ言

渡ヲ爲スヲ得

被告ハ其共犯人ト雜居シ又ハ親戚朋友代

言シテ或ハ檢事ノ請求ニヨリ或ハ自己ノ職權ヲ以テ

或ハ檢事ノ請求ニヨリ或ハ自己ノ職權ヲ以テ

或ハ檢事ノ請求ニヨリ或ハ自己ノ職權ヲ以テ

第四百十四條

密室監禁ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ一名毎

ニ之ヲ別室ニ置キ豫審判事ノ允許ヲ得ルニ非サレハ他人ト接見シ又ハ書類貨幣其他ノ物品ヲ授受スルヲ許サス食物飲料藥餌其他監倉ヨリ給ス可キ物品ト雖モ監倉長ノ特ニ指名シタル者ヲシテ之ヲ給與セシム密室監禁ノ言渡ハ一名コトニ別室ニ入レテ豫審判事ノ允許ヲ得ルニ非サレハ他人ト面會シ又ハ書類貨幣其他ノ物品ヲ授受スルノ特別ニ擇ヒタル者ヲシテ之ヲ給與セシム

第四百十五條 密室監禁ハ十日ヲ超過ス可カラズ但十日毎ニ其言渡ヲ更改スルヲ得

言渡ヲ更改スル時ハ其事由ヲ裁判所長ニ報告ス可シ豫審判事ハ十日間ニ少クトモ二度被告人ヲ訊問シ通常ノ規則ニ從ヒ調書ヲ作ル可シ密室監禁ハ非常ノ處分ニテ被告ル者ナルニヨリ裁判官ノ怠慢ヨリ故ナク遷延セシム可ラス故ニ其期限ヲ十日ト定メ十日ヲ超過ス可ラズト爲ス但十日

日ニテハ日數猶ホ不足ナル時ハ十日コトニ改メテ之ヲ言渡スヲ得レモ其都度其事由ヲ裁判所長ニ報告シ且ツ其十日間ニ少クトモ二度被告人ヲ訊問シ通常ノ規則ニ從ヒ調書ヲ作ルヘシ

第三節 證據

第四百十六條 法律ニ於テハ被告事件ノ模様ニ因リ有非ナルノ推測ヲ定ムルヲナシ

被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ス民事ノ法律ル事實ニ付裁判ノ證據ト爲スヘキ事ヲ定メタル者夥多アリ之ヲ法律上ノ推測(或ハ思料)ト謂フ刑事ニ於テハ被告事件ノ模様ニ依リテ有罪ナルノ推測ヲ法律上ニ定メタル者ナシ是レ民刑證據ノ相異ナル所以ナリ○被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ皆刑事ニ於テ證據ト爲スヘキ事ト雖モ其裁判官ハ必ス皆是等ノ由テ證據ヲ審查シ自己ノ良心ニヨリテ罪ノ有無ヲ判決ス

第四百四十七條 豫審判事ハ檢察官民事原告人被告人ノ請求

ニ因リ又ハ職權ヲ以テ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル證據
據徵憑ヲ集取ス可シ 豫審判事ハ檢察官民事原告人被告人ノ
請求ニ因リ又ハ自己ノ職權ヲ以テ有罪
無罪一切ノ證據徵憑ヲ集取ス可シ是レ豫審判事ノ職務ナリ

第四百四十八條 豫審判事臨檢家宅搜索物件差押又ハ被告人

證人ノ訊問ヲ爲スニハ書記ノ立會ヲ必要トス書記ハ調書
ヲ作り豫審判事ト共ニ署名捺印ス可シ

裁判所外ニ於テ急遽ノ際書記ノ立會ヲ得ルヲ能ハサル時
ハ立會人二名アルヲ要ス但監倉ニ就テ被告人ヲ訊問スル
時ハ其監倉ノ官吏一名ヲシテ立會ハシム可シ
前項ノ場合ニ於テハ豫審判事自ラ調書ヲ作り之ヲ讀聞カ
セ立會人ト共ニ署名捺印ス可シ

書記又ハ立會人ナクシテ爲シタル處分ハ其效ナカル可シ

豫審判事ハ書記ノ勞ヲ分ツ爲メノ書記ノ立會ヲ要ス
是レ當ニ筆記ノ勞ヲ分ツ爲メノ書記ノ立會ヲ要ス
不當ノ處置ナカシメテ豫審判事ハ其職務ニ專横
ヲモ過當ニ非サルナリ故ニ豫審判事ハ其職務ニ專横
ト裁判所外ニ行テ之ヲ爲スニハ其職務ニ專横
ト必要トス但シ裁判所外ニ於テ取調チ爲ス立會
記ノ立會ヲ得ルヲ能ハサル時ハ二名ノ立會ヲ要ス
立會人ハ只書記ノ立會ヲ作リ之ヲ讀聞カセ立會人ト共ニ署名
捺印ス可シ

第四節 被告人ノ訊問及ヒ對質

第四百四十九條 豫審判事ハ先ツ被告人ヲ訊問ス可シ但檢證

ヲ爲シ又ハ證人ヲ訊問スルニ付キ急速ヲ要スル時ハ此限
ニ在ラス 豫審判事ハ先ツ被告人ヲ訊問スルニ付キ急速
ヲ要スル時ハ此限ニ在ラス 勿論ナリ何トナレハ被告
人ハ一言以テ其無罪ヲ爲
スハ甚ク不當ナレハナリ但シ急速ニ檢證又ハ證人ヲ訊問セ

護ノ權ハ抑制ス可ラサル者ナルニヨリ其供述錄取ノ謄本ヲ
求ムルキハ之ヲ下付スヘキハ勿論ナリ

第一百五十四條 豫審判事ハ被告人ノ共犯ナルト人違ナキト

其他事實ヲ發見ス可キ一切ノ模様ヲ證スル爲メ必要ナリ

トスル時ハ被告人ト他ノ被告人證人又ハ其他ノ者ト對質

セシムルト得豫審處分ハ秘密ニ取調フルヲ以テ常トスレ

ハ民事原告人等ト對質ト爲サシムルキハ大ニ其實ヲ得ルコ

第一百五十五條 書記ハ對質人ノ陳述及ヒ對質ニ因リ生スル

一切ノ事件ヲ錄取シ對質人ニ其對質ニ關スル部分ヲ讀聞

カス可シ

第一百五十一條第一百五十二條ノ規則ハ對質ニ付テモ亦之ヲ

適用ス對質人ノ陳述及ヒ對質人數名アリ生スル一切ノ事件ハ書記

ト部分ノミヲ讀聞カスヘシ是レ豫審ハ秘密ニ行フヲ以テ主義

規則ハ對質ニモ之ヲ適用スヘシ

第五十六條 被告人又ハ對質人聾ナル時ハ書面ヲ以テ問

ヒ啞ナル時ハ書面ヲ以テ答ヘシム若シ聾者啞者文字ヲ知

ラサル時ハ通事ヲ命ス可シ

被告人又ハ對質人國語ニ通セサル時亦同シ被告人對質人

字ヲ知ル時ハ書面ヲ以テ問ヒ啞者ナル時ハ書面ヲ以テ答ヘ

シム若シ聾者啞者文字ヲ知ラサル時ハ親戚故舊等平生能ク

手様等ヲ以テ意ヲ通スル所ノ者ヲ以テ通事ト爲ス可シ被告

第五十七條 通事ハ正實ニ通譯ス可キノ宣誓ヲ爲ス可シ

書記ハ通事ニ調書ヲ讀聞カセ之ニ署名捺印セシム可シ

第九十二條第九十三條第二百條ノ規則ハ本條ニモ亦

之ヲ適用ス前條ノ通事ハ其事ニ取掛ル前正實ニ通事ヲ爲ス

書記通事ニ調書即チ書取ヲ讀聞カセテ署名捺印セシム

第五節 檢證及ヒ物件差押

第百五十八條 豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ重罪輕罪ノ犯所ニ臨ミ檢證ヲ爲ス可シ

又檢事ノ請求アリタル時ハ如何ナル場合ト雖モ臨檢ス可シ
シ 犯所ニ臨ミ痕跡犯罪ノ場所ニ現存スルモ甚タ多シ故ニ犯罪ノ場所ニ臨ミ痕跡犯罪ヲ檢査スルヲ最モ必要ナリ豫審判事ハ必要ナリ
ル 請合ニ於テハ犯罪ノ場所ニ臨檢セサルヲ得ス

第百五十九條 豫審判事ハ犯罪ノ性質方法日時場所及ヒ被告人ノ人違ナキヲ證明ス可キ模様ニ付キ調書ヲ作ル可シ

又被告人ノ利益ト爲ル可キ模様ヲモ記載ス可シ
シ 豫審判事
スルハ犯罪ノ性質方法日時場所及ヒ被告人ノ人違ナキヲ證明ス可キ模様ヲモ記載ス可シ
事トハ被告人ノ利益ト爲ル可キ模様ヲモ記載ス可シ

第百六十條 豫審判事ハ臨檢ノ場所ニ於テ發見シタル物件

其出所及ヒ模様ニ因リ被告人ノ人違ナキ又ハ犯罪ノ模様ヲ知ルニ足ル可シト思料シタル時ハ之ヲ差押ヘテ認印ヲ爲シ目錄ヲ作ル可シ但其物件ヲ監護シ又ハ遞送スルハ書記之ヲ擔任ス可シ
シ 臨檢ノ場所ニ於テ犯罪ノ證據トナルヘ
認印ヲ爲シ其目錄ヲ作ル可シ其物件ヲ監護シ又ハ遞搬スル

第百六十一條 豫審判事ハ臨檢家宅搜索物件差押ニ付キ其

日ニ處分ヲ終ラサル時ハ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クヲ得
シ 豫審判事其日ニ臨檢處分ヲ終ルヲ能ハサル時ニ其場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クヲ得

第百六十二條 豫審判事ハ被告人ノ住所又ハ事實ヲ證明ス可キ物件ヲ藏匿スルノ疑アル者ノ住所ニ臨檢スルヲ得

ム可シ

其訊問及ヒ陳述ハ之ヲ調書ニ記載ス可シ

差押ヘタル物ニ付テ被告

人正當ノ辯解アラシムル可カラサルニヨリ其差押ヘタル物ニ付テ被告シタルハ被告ノ立會フタルト否トナ問ハス其物件ヲ被爲
告人ニ示シ辯解ヲ爲サシムヘシ訊問及ヒ被告人ノ陳述ハ
通常ノ規則ニ從テ調書ニ記載ス可シ

第六十六條

豫審判事ハ臨檢ノ場所ニ於テ證人ノ陳述ヲ

聽クヲ必要ナリトスル時ハ書記ノ立會ニ依リ各別ニ之

ヲ訊問ス可シ

第七十條以下ノ規則ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

犯所臨檢
家宅搜索

ノ場所ニ就テ證人ノ陳述ヲ聽クヲ必要ナリトスル時ハ書記ノ立會ヲ以テ各別ニ證人ヲ訊問ス可シ證人ヲ訊問スルニ付テハ第七十條以下ノ規則ヲ履行ス可シ以テ右ノ場合ニ於テ

第六十七條

豫審判事ハ前數條ニ記載シタル處分中何人

ニ限ラス允許ヲ得スシテ其場所ニ出入スルヲ禁スルヲ

得

若シ其禁ヲ犯ス者アル時ハ之ヲ逐斥シ又ハ處分ヲ終ルマ

テ之ヲ留置スルヲ得 臨檢ノ場所ニ他人入來リ又ハ其場所

シ其他取調ヲ妨碍スヘシ故ニ豫審判事ハ出入ス可ラスト禁處分中何人ニ限ラス其禁ヲ終ルマテ留置スルヲ得

第六十八條

豫審判事ハ其管轄地内ト雖モ時宜ニ因リ臨

檢家宅搜索ノ事ヲ其地ノ治安判事ニ囑託スルヲ得 豫審

ハ其管轄地内ナレハ自ラ臨檢スルヲ以テ正則トスルニ因リ豫審ニヨリ事ノ難易輕重ニ從ヒ臨檢家宅搜索ノ事ヲ其地ノ治安判事ニ囑託スルヲ得シテ豫審判事ニ屬スル職權ヲ以テ其處分ヲ爲ス可シ

第六十九條

豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル

時ハ驛遞電信鐵道ノ官署諸會社ニ其事由ヲ通知シ被告人

又ハ豫審ニ關係アル者ヨリ發シ若クハ是等ノ者ニ對シ發シタル書類電報又ハ物件ヲ受取開披スルヲ得但受取證書ヲ渡ス可シ

前項ノ書類物件不用ニ屬シタル時ハ其官署又ハ會社ニ還付ス可シ

凡ソ他人ノ書翰等ハ決シテ之ヲ開披スルヲ得ス
ト雖モ犯罪ノ事實ヲ發見スルニ必要ナリト見込ム
#ハ豫審判事ヨリ驛遞電信鐵道ノ官署及ヒ會社ニ其由チ
通シ豫審判事ヨリ豫審電信鐵道ノ官署及ヒ會社ニ其由チ
是等ノ者ニ發シタル書類電報又ハ物件ヲ受取開披スル
#ハ其官署又ハ會社ニ渡ス可シ○其書類物件既ニ不用ニ屬スル

第六節 證人訊問

第七十條 豫審判事ハ檢事民事原告人又ハ被告人ヨリ證人トシテ指名シタル者ヲ呼出ス可シ

原告證人被告證人ノ員數夥多ナル時ハ指名ノ順序ニ從ヒ

又ハ最モ事實ヲ知ル可シト思料シタル者輕罪事件ニ付テハ各五名重罪事件ニ付テハ各十名ヲ限り先ツ之ヲ呼出ス可シ但事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ此限ニ在ラス

又原被ノ指名セサル者ト雖モ豫審判事ノ職權ヲ以テ證人トシテ之ヲ呼出スヲ得
證人ノ口證ハ裁判官ノ心證ヲ成ス
シ實際其犯罪目撃シタル者ハ甚ク僅少ナルヘシト雖モ犯罪前後ノ摸樣及ヒ被告ノ舉動素行等ヲ熟知スル者アリテ
罪ヲ喚問スルハ大ニ事實ヲ發見スルヲアル可シ故ニ豫審判事ハ喚問スルハ輕罪ニ付テハ無益ノ費用ヲ糜シタル證人夥
多シテ悉ク之ヲ喚問スルハ然モ原被ノ指名シタル證人夥
ル者ハ必ス之ヲ呼出ス可シ
判事ハ喚問スルハ大ニ事實ヲ發見スルヲアル可シ故ニ豫審判事ハ喚問スルハ輕罪ニ付テハ無益ノ費用ヲ糜シタル證人夥
ハ各十人トシテ證人ノ員數ヲ限ルヲ得可シ○原被ノ指名セサル者ハ豫審判事ノ職權ヲ以テ證人トシテ喚問スルヲ得

第七十一條 證人ハ豫審判事ノ名ヲ以テ之ヲ呼出ス可シ

但其呼出狀ハ第二十三條ノ規則ニ從ヒ之ヲ送達ス可シ

若シ證人管轄地外ニ在ル時ハ其所在ノ地ノ輕罪裁判所書記ニ送達ノ事ヲ囑託ス可シ證人呼出ハ豫審判事ノ名ヲ以テ出狀ヲ送達ス可シ○他ノ裁判所管轄内ニ在ル所ノ證人ハ直ニ呼出狀ヲ送達スルコト能ハサルニ付其所在ノ地ノ裁判所書記ニ送達ノ事ヲ囑託ス可シ

第七十二條 豫審判事ハ證人裁判所々在ノ地ニ住セサル時ハ其住所ノ地ノ治安判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルコトヲ得若シ證人管轄地外ニ在ル時ハ其所在ノ地ノ豫審判事又ハ治安判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テ呼出狀ハ囑託ヲ受ケタル判事ノ名ヲ以テ其裁判所ノ書記局ヨリ之ヲ送達ス可シ證人其裁判所管轄内ニ住スルト雖モ其裁判所々在ノ地ニ住セサルハ其住所ノ地ノ治安判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルコトヲ得○其證人若シ他管下ニ住スルモ又ハ其地ノ豫審判事又ハ治安判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スル

モ隨意ナリ總テ本條ノ場合ニ於テハ其囑託ヲ受ケタル判事ノ名ヲ以テ呼出狀ヲ作リ其裁判所ノ書記局ヨリ之ヲ送達セシム

第七十三條 呼出狀ニハ證人ノ氏名住所及ヒ職業ヲ記載ス可シ

又出頭ノ日時場所及ヒ呼出ニ應セサル時ハ罰金ヲ言渡シ且勾引スルコトアル可キ旨ヲ記載ス可シ

呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫アル可シ呼出狀ニハ證人ノ氏名住所及ヒ職業ヲ記載ス可シ又其證人法律ヲ知ラサルカ爲メニ呼出ニ應セサル者アラントテ考慮シ若シ呼出ニ應セサルハ罰金ヲ言渡シ且勾引スルトアルヘキ旨ヲ記載ス可シ○路程ノ遠近ニ從ヒ呼出狀ノ送達ト出廷トノ間ニ二十四時間以上ノ猶豫ヲ置ク可シ

第七十四條 證人疾病公務其他正當ノ事故ニ因リ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタル時ハ豫審判事其所在ニ就

テ之ヲ訊問ス可シ 本條ハ第百二十五條ト同ク證人若シ疾病ハサレ旨ヲ證明シタル時ハ豫審判事其者ノ所在ニ就テ訊問ス可シ

第百七十五條 證人ト爲ル可キ者陸海軍在營ノ軍人軍屬ナル時ハ其所屬長官ヲ經由シテ呼出狀ヲ送達ス其長官ハ即時ニ出廷セシム可キヲ認可シ又ハ職務上已ムトナ得サ
ル差支アル時ハ其事由ヲ付シテ出廷ノ延期ヲ豫審判事ニ請求ス可シ 本條ハ第百三十六條ト同一ノ趣意ニテ其證人ト爲ル長官ニヨリテ呼出狀ヲ送達ス可シ其長官ハ即時ニ出廷セシム可キヲ認可シ又ハ其者職務上ニ於テ已ムトナ得サ
○豫審判事延期ノ請求ヲ受ケタル時ハ相當ノ猶豫ヲ與ヘ又ハ前條ノ如ク其所在ニ就テ訊問ス可シ

第百七十六條 豫審判事ハ前二條ニ定メタル差支ノ場合ヲ除クノ外證人呼出ニ應セサル時ハ檢事ノ意見ヲ聽キ二圓

以上十圓以下ノ罰金ヲ言渡ス可シ但其言渡ニ對シテハ故障及ヒ控訴ヲ許サス

豫審判事ハ其證人ニ對シ罰金ノ言渡書ト共ニ再度ノ呼出狀ヲ送達シ又ハ直ニ勾引狀ヲ發スルヲ得但其費用ハ證人ナシテ之ヲ擔當セシム

若シ證人再度ノ呼出ニ應セサル時ハ二倍ノ罰金ヲ言渡シ且勾引狀ヲ發スルヲアル可シ 前兩條ニ定メタル正當ノ差支頭セサル時ハ檢事ノ意見ヲ聞キ直ニ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ言渡ス可シ此言渡ニ對シテハ故障及ヒ控訴ヲ爲ス可シ
送達シ又ハ豫審判事ハ右ノ罰金言渡書ト共ニ再度ノ呼出狀ヲ發スルヲ得シム 費用ハ元ト證人ノ過失ヨリ出タルヲ以テ其證人ナシテ之ヲ擔當セシムルハ勿論ナリ
○其證人再度ノ呼出狀ヲ受ケテ上二十圓以下ノ罰金ヲ言渡シ且勾引狀ヲ發スルヲアル可シ

第百七十七條

豫審判事ハ證人初度又ハ再度ノ呼出狀ヲ受

ケサルヲ其呼出狀第七十三條ノ規則ニ背キタルヲ又ハ豫知シ難キ正當ノ事故アリテ出廷スル能ハサリシヲ證明シタル時ハ檢事ノ意見ヲ聽キ其罰金ノ言渡ヲ取消ス可シ
前條ニ記シタル罰金ハ其證人ヲ訊問セシテ受ケタル言渡シ者ナルニヨリ之ヲ言渡シタル後證人其呼出狀ヲ受ケタル又ハ第七十三條ニ記シタル規則ニ背キタルヲ又ハ檢事ノ意見ヲ聽キタル上罰金ノ言渡ヲ取消ス可シ

第七十八條 證人呼出狀ニ因リ出廷シタル時ハ其呼出狀ヲ書記ニ差出ス可シ若シ之ヲ遺失シタル時ハ其人違ナキヲ證明ス可シ

第七十九條 豫審判事ハ證人トシテ呼出シタル者ニ對シ其氏名年齢職業住所及ヒ第七十八條ニ記載シタル者ナリヤ否ヲ問フ可シ
證人出廷シタル時ハ其呼出狀ヲ書記局ニ差出ス可シ若シ之ヲ遺失シタル時ハ其呼

出狀ニ記シタル人ニ相違ナキ旨ヲ證明ス可シ○豫審判事ハ證人トシテ呼出シタル者ニ對シ第一ニ其氏名年齢職業ヲ尋テ次ニ第七十八條ニ記載シタル者ナリヤ否ヲ問フ可シ

第八十條 豫審判事ハ證人ヲシテ愛憎畏懼ノ心ナク正實ニ陳述ヲ爲ス可キヲ宣誓セシム可シ

豫審判事ハ證人ニ宣誓書ヲ讀聞カセ之ニ署名捺印セシム若シ署名捺印スルヲ能ハサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ

宣誓書ハ訴訟書類ニ添置ク可シ
豫審判事ハ證人ノ陳述ヲ聞ク前ニ愛憎畏懼ノ念ヲ抱カズ正實ニ陳述スヘキ旨ノ宣誓書ヲ爲シシム可シ其式ハ豫審判事ニ對シ宣誓書ヲ讀聞カセテ之ニ署名捺印セシムルニ在リ

第八十一條 左ニ記載シタル者ハ證人ト爲ルヲ許サス但事實參考ノ爲メ其陳述ヲ聽クヲ得

- 一 民事原告人
- 二 民事原告人及ヒ被告人ノ親屬

付テモ亦之ヲ適用ス 証人聲啞又ハ日本語ヲ解セサル者ナル

第百八十七條 皇族又ハ勅任官證人ナル時ハ豫審判事書記

ト共ニ其所在ニ就テ陳述ヲ聽ク可シ 証人タル者皇族又ハ勅任官ナルハ其身分ヲ

尊崇シテ裁判所ニ呼出スルヲ許サス豫審判事書記ト共ニ其所在ニ就テ訊問スヘシト爲ス

第百八十八條 書記ハ證人ノ陳述ニ付キ各別ニ調書ヲ作ル

可シ

其調書ニハ證人宣誓ヲ爲シタルヲ又ハ爲サ、ルノ事由ヲ

記載ス可シ 書記ハ證人ノ訊問ニ立會ヒ其訊問及ヒ供述ヲ各別ニ錄取シ又其証人ノ宣誓ヲ爲シタルヲ又ハ第

百八十一條及ヒ第百八十二條ニ記載シタル者ナルヲ以テ宣誓ヲ爲サ、リシ事ヲ錄スヘシ

第百八十九條 豫審判事ハ證人ニ其陳述ノ相違ナキヤ否ヲ

知ラシムル爲メ書記ヲシテ調書ヲ讀聞カセシム可シ

證人ハ其陳述ヲ變更増減セシムルヲ請求スルヲ得書記ハ其

請求アリタルヲ及ヒ變更増減ノ條件ヲ調書ニ記載シ豫審

判事及ヒ證人ト共ニ署名捺印ス可シ 若シ證人署名捺印ス

ルヲ能ハサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ 本條ハ第百五十一條第

第百九十條 證人ハ即時ニ出延ニ付テノ旅費日當ヲ要ムル

ヲ得

若シ日稼ヲ以テ生業トスル者ナル時ハ旅費日當ノ外日稼

高ニ等シキ償金ヲ要ムルヲ得

本條ノ場合ニ於テハ豫審判事其金額ヲ定メ之ヲ言渡ス可

シ 証人出延ニ付テノ旅費日當ハ一時裁判所ニ於テ之ヲ立替置

シキ結局敗訴シタル者ヲシテ之ヲ辨償セシム又其證人日稼ヲ

以テ業ト爲ス者ナル時ハ旅費日當ノ外其日稼料ニ等シキ償

金ヲ與フ可シ旅費日當ノ額ハ裁判費用規則ニ從ヒ日稼料ノ

第七節 鑑定

第百九十一條 豫審判事ハ犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ知ラントスルニハ特

ナラシムル爲メ鑑定人ヲ必要ナリトスル時ハ學術職業ニ
因リ鑑定スルヲ得可キ者一名又ハ數名ヲシテ鑑定ヲ爲
サシム可シ 犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ知ラントスルニハ特
別ノ學術識能ヲ要スルコトアリ例ヘハ毒殺ノ罪ニ
付テ死屍ヲ解剖シ毒藥ヲ分析シ毆打創傷ノ罪ニ付テ内外創
傷ノ輕重ヲ檢スルハ醫師ニ非サレハ能クシ難シ書類又ハ印
章ノ驗眞ヲ爲スルハ書家又ハ印刷師ノ能クシ難シ所ヲ補フ者ナリ
等ノ者ヲ鑑定人ト謂フ即チ判事ノ知ラサル所ヲ補フ者ナリ

第百九十二條 鑑定人ハ書記局ヨリ呼出狀ヲ以テ之ヲ呼出

ス可シ其呼出狀ニハ犯罪事件ニ付キ鑑定ヲ命スルコト及ヒ
呼出ニ應セサル時ハ罰金ヲ言渡ス可キコトヲ記載ス可シ
鑑定人呼出ニ應セサル時ハ第百七十六條ノ規則ニ從ヒ處
分ス可シ但勾引狀ヲ發スルコトヲ得ス
第百七十七條ノ規則ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス 鑑定人ハ書證

人鑑人如ク書

第百九十三條 鑑定人ハ正實ニ鑑定ス可キノ宣誓ヲ爲ス可

シ其宣誓ハ第百八十條ノ式ニ從フ
書記ハ鑑定人ノ宣誓シタルコトヲ鑑定命令書ノ紙尾ニ記載
シ之ニ宣誓書ヲ添置ク可シ

第百九十四條 鑑定人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ鑑定ヲ肯

セサル時ハ豫審判事檢事ノ意見ヲ聽キ刑法第百七十九條
ニ從ヒ罰金ヲ言渡ス可シ但其言渡ニ對シテハ故障及ヒ控
訴ヲ許サス 鑑定人モ證人ノ如ク宣誓ヲ爲スヘク若シ宣誓
第百七十九條ニ依リ四圍以上四十圓以下ノ罰金ヲ言渡サル
可シ

鑑定書ハ鑑定命令書ニ添置シ可シ外國人鑑定ヲ爲シタル時ハ其鑑定書ニ裁判所ヨリ命シタル通事ノ作りタル譯本ヲ添置シ可シ

第二百條 鑑定人及ヒ通事ニハ旅費給料其他相當ノ費用ヲ給與ス可シ 鑑定人通事ニハ旅費給料其他相當ノ費用ヲ渡スヘキハ勿論ナリ

第八節 現行犯ノ豫審 現行犯ノ場合ニ於テハ時機緊急ナルヲ得ス故ニ此一節特ニ現行犯ノ豫審ニ係ル規則ヲ舉ケタルナリ

第二百一條 豫審判事ハ檢事ヨリ先ニ現行ノ重罪輕罪アルトナ知リタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スル時ハ檢事ノ請求ヲ待タス直チニ其旨ヲ通知シ豫審ニ取掛ルヲ得豫審判事ハ犯所ニ臨檢シ令狀ヲ發シ其他此章ニ定メタル規則ニ從ヒ豫審ノ處分ヲ爲スヲ得 第三百十三條ニ現行ノ重罪輕罪ヲ除クノ外

豫審判事ハ檢事又ハ民事原告人ノ請求アルニ非サレハ豫審ニ取掛ルヲ得ストアレハ通常豫審判事ハ檢事又ハ民事原告人ノ請求ヲ待タスニテ直チニ豫審ニ取掛ルヲ得可シ本條ハ即チ第三百十三條ノ例外ナリ

第二百二條 前條ノ場合ニ於テハ檢事ノ起訴ナシト雖モ豫審判事檢證調書ヲ作ルヲ以テ公訴ヲ受理シタル者トス其調書ニハ重罪又ハ輕罪ナルトヲ記載ス可シ

豫審判事ハ迄ニ書類ヲ檢事ニ送致ス可シ但檢事ヨリ其豫審手續ヲ繼續ス可キ者ニ非サルノ意見アリト雖モ通常ノ規則ニ從ヒ之ヲ終結ス可シ 現行犯ニ於テ豫審判事直チニ豫審ニ取掛リ調書ヲ作りタルハ猶ホ第三百十條ノ場合ノ如ク檢事ノ起訴ナシト雖モ公訴ヲ受理シタル者ト做シ繼令ヒ檢事ニ於テ豫審手續ヲ繼續ス可キ者ニ非ララスト見込ムモ之ニ拘ハラス通常ノ規則ニ從テ豫審終結ノ處分ヲ爲ス可シ(第三百一條參看)

第二百三條 檢事ハ豫審判事ヨリ先ニ現行ノ重罪輕罪アル

トナ知リタル時ハ豫審判事ヲ待ツトナク其旨ヲ通知シテ
犯所ニ臨檢シ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲ストナ得但罰金
ノ言渡ヲ爲ストナ得ス

證人及ヒ鑑定人ノ陳述ハ宣誓ヲ用フルトナク之ヲ聽ク可シ

檢事ハ原告人ナルヲ以テ通常犯罪ノ證憑及ヒ犯人ヲ搜查シ
テ裁判ニ起訴ヲ爲スノ權アルノミニテ被告人及ヒ證人ヲ訊
問シ犯所ニ臨檢スルヲ以テ豫審判事ニ起訴ナクテ豫審ニ取掛ル
急速ヲ要スルヲ以テ豫審判事ニ起訴ナクテ豫審ニ取掛ル
トナ許ルスト同ク檢事モ亦豫審判事ノ權内ニ屬スル令狀
ヲ發シ被告人及ヒ證人ヲ訊問スル犯人ノ權内ニ屬スル令狀
處分ヲ爲ストナ許ルセリ但シ證人鑑定人其呼出ニ應セサル
時罰金ヲ言渡ストナ得又証人鑑定人陳述モ事實參考ノ
爲メ之ヲ聽クノミニテ宣誓ノ式ヲ行ハシムルトナ得ス

第二百四條 前條ノ場合ニ於テ檢事ハ證憑書類ニ意見書ヲ
添へ速ニ之ヲ豫審判事ニ送致ス可シ

檢事既ニ前條ノ手續ヲ
ニ意見書ヲ添へテ豫審判事ニ送致ス可シ

第二百五條 第二百三條ニ於テ檢事ニ許シタル職務ハ司法
警察官モ亦假ニ之ヲ行フトナ得但令狀ヲ發スルトナ得ス

司法警察官ハ證憑書類ニ意見書ヲ添へ被告人ト共ニ速ニ
之ヲ檢事ニ送致ス可シ

現行犯ノ場合ニ於テハ司法警察官ニ
モ檢事ト同一ナル權ヲ與ヘタリ但ニ
令狀ヲ發スルトナ得ス既ニ其處分ヲ爲シタルモハ證憑書類
ニ意見書ヲ添へ被告人ト共ニ檢事ニ送致ス可シ

第二百六條 檢事被告人ヲ受取りタル時ハ二十四時内ニ之
ヲ訊問シ調書ヲ作り勾留狀ヲ發スルト否トナ問ハス一切

ノ書類ニ請求書ヲ添へ豫審判事ニ送致ス可シ

若シ起訴ヲ爲ス可カラサル者ト認メタル時ハ直チニ被告
人ヲ放免ス可シ

檢事司法警察官ヨリ被告人ヲ受取リタル時
ハ二十四時内ニ之ヲ訊問シ一切ノ書類ニ請
求書ヲ添へ豫審判事ニ送致ス可シ是レ即チ起訴ナリ若シ又
起訴ナシ場合ニ於テハ檢事自ラ豫審ニ繼續スヘキト否トナ爲
タル場合ト異ニシテ檢事自ラ豫審ヲ繼續スヘキト否トナ爲
シ決

シテ其處分ヲ爲スヲ得ルナリ

第二百七條 豫審判事ハ二十四時内ニ被告人ヲ訊問ス可シ

此場合ニ於テハ檢事ノ發シタル勾留狀ヲ解キ又ハ之ヲ存

スルヲ得 豫審判事檢事ヨリ送致テ受ケタル時ハ二十四時

内ニ被告人ヲ訊問シテ豫審手續ヲ爲ス可シ此場
合ニ於テハ前ニ檢事ノ發シタル勾留狀ヲ解キテ被告人ヲ放
免シ又ハ其儘之ヲ存シ置クモ自由ナリ

第二百八條 豫審判事ハ檢事又ハ司法警察官ノ爲シタル手

續ニ付キ更ニ其取調ヲ爲スヲ得但檢事又ハ司法警察官

ノ作りタル調書ハ之ヲ訴訟書類ニ添置シ可シ 豫審判事ハ
前ニ檢事又

ハ司法警察官ノ爲シタル手續不充分ナリト見込ムルハ更ニ
取調フルヲ得但シ其檢事又ハ司法警察官ノ作りタル調書
ハ他日ノ參考ト爲ルヘキヲ以テ訴訟書類ニ添置クヘシ

第二百九條 檢事ハ輕罪ノ現行犯ニ係ル場合ニ於テ勾留狀

ヲ發シタルト否トニ拘ハラヌ被告人ヲ訊問シタル後豫審

ヲ求ムルニ及ハスト思料シタル時ハ直チニ輕罪裁判所ニ

呼出スヲ得 檢事ハ輕罪ノ現行犯ニ於テ其事重大艱難ナラ
ニ付スルヲ得可シ

第九節 保釋 ホウシツ

第二百十條 豫審判事ハ豫審中勾留狀又ハ收監狀ヲ受ケタ

ル被告人ノ請求ニ因リ檢事ノ意見ヲ聽キ何時ニテモ呼出

ニ應シ出廷ス可キノ證書ヲ差出サシメ保釋ヲ許スヲ得

被告人無能力ナル時ハ親屬又ハ代人ヨリ保釋ヲ求ムルヲ

得 裁判中被告人ヲ勾留スルハ其逃亡及ヒ證據ヲ消滅セシ
テ得テ防クカ爲メナリ故ニ逃亡及ヒ證據ヲ消滅ノ恐ナキハ固
ヨリ之ヲ釋放スヘシ是レ保釋ノ法ヲ設ケタル所以ナリ○保
釋ハ被告人ノ請求ニ因テ之ヲ許ス者ナリ但シ豫審判事ハ保
檢事ノ意見ヲ聽クヲ要ス○無能力者ハ自ラ金額ニ關スル
義務ヲ負フヲ能ハサルニ付其親屬又ハ法律ニ定メタル代
ヨリ其請求ヲ爲スヘシ

第二百十一條 前條ノ證書ハ書記局ニ差出ス可シ

保釋中被告人ヲ呼出ス時ハ出廷ヨリ二十四時前ニ其報知

ヲ爲ス可シ 保釋ヲ許サレタルニ付何時モ呼出ニ應シテ

出廷スヘキ旨ノ證書ハ書記局ニ差出サシム ○其

保釋中被告人ヲ呼出スニハ二十四時前ニ之ヲ報知スヘシ

第二百十二條 保釋ヲ許スニハ金圓ヲ以テ被告人ノ出廷ヲ

保證セシム可シ但豫審判事其金額ヲ定メ保釋ヲ許スノ言

渡書ニ記載ス可シ 保釋ヲ許スニハ金額ヲ以テ其出廷ヲ保

證セシム其額ハ豫審判事適宜ニ之ヲ定メ

保釋ヲ許ル言渡書ニ記載スヘシ

第二百十三條 保證ヲ爲スニハ被告人又ハ其他ノ者ヨリ保

證金若クハ貯金預所又ハ銀行ノ預證書ヲ書記局ニ差出ス

可シ

又裁判所ノ管轄地内ニ住シ且充分ナル資力アル者ヨリ金

額ニ充ツ可キ保證書ヲ差出スヲ得 前條ノ保證金ハ被告

金額又ハ貯金預所若クハ銀行ノ預證書ヲ以テ書記局ニ差出

ス可シ又金額又ハ預證書ヲ差出サスシテ其裁判所ノ管轄地

内ニ住シ充分ノ家産資力アル者ヨリ保證書ヲ出シ保證人トナルヲ得

第二百十四條 保釋中被告人呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシ

テ出廷セサル時ハ保證金ノ全部又ハ幾分ヲ没入ス可シ

第二百十五條 保證金ヲ没入スルニハ檢事ノ意見ヲ聽キ豫

審判事其言渡ヲ爲ス可シ

若シ他人ノ保證ニ係ル時ハ民事ノ規則ニ從ヒ之ヲ徵收ス

可シ 保釋中被告人呼出ヲ受ケ疾病其他正當ノ事故ナクシテ出

廷セサル時ハ其保證金ノ全部又ハ幾部分ヲ官ニ没入ス之

ヲ没入スルハ豫審判事檢事ノ意見ヲ聽テ其言渡ヲ爲シ時

金預所又ハ銀行ノ預證書ナルハ正金ト引換ヘテ之ヲ官ニ取

リ上シヘシ若シ又資力アル者保證人トナリタル時ハ檢事ニ

第二百十六條 豫審判事保證金ヲ没入シタル時ハ保釋ノ言

渡ヲ取消ス可シ

又豫審中保釋ノ言渡ヲ取消スヲ必要ナリトスル時ハ檢

事ノ意見ヲ聽キ其言渡ヲ取消ス可シ

被告人出廷セサルニ因テ保證金ヲ没入シ

タル時ハ保釋ノ言渡ヲ取消シ前ニ發シタル勾留狀又ハ収監狀ヲ以テ勾留ス可シ○又被告人呼出テ受ケテ出廷セサルニ非サルモ逃亡又ハ證據ヲ湮滅スルノ恐アリハ豫審中何時ニテモ檢事ノ意見ヲ聽テ保釋ノ言渡ヲ取消ス可シ

第二百十七條

豫審判事保證金ヲ没入シタル後免訴ノ言渡

違警罪裁判所ニ移スノ言渡又ハ罰金ニ該ル可キ輕罪ニ付

キ輕罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲シタル時ハ檢事ノ意見ヲ

聽キ前ニ没入シタル金額ヲ還付ス可シ

保證金ヲ没入シタル後免訴ノ言渡違

警罪裁判所ニ移スノ言渡又ハ罰金ニ該ル可キ輕罪ニ付キ輕罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲シタル時ハ其人元ト勾留スヘキナリ

第二百十八條

豫審判事免訴ノ言渡違警罪裁判所ニ移スノ

言渡又ハ罰金ニ該ル可キ輕罪ニ付キ輕罪裁判所ニ移スノ

言渡ヲ爲シ若クハ保釋ノ言渡ヲ取消シタル時ハ保證金ヲ

還付ス可シ

保證金ヲ没入セタル場合ニ於テ免訴ノ言渡違警罪ニ付キ輕罪裁判所ニ移スノ言渡又ハ罰金ニ該ル可キ輕罪ニ付キ輕罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ取消シタル時ハ保證金ヲ還付ス可シ

第二百十九條

豫審判事ハ保釋ノ請求アルト否トヲ問ハス

檢事ノ意見ヲ聽キ被告人ヲ其親屬又ハ故舊ニ責付スル

ヲ得被告人逃亡又ハ證據湮滅ノ恐ナシテ保證金ヲ差出サシムルモ及ハサル者ト見込ムキハ被告人ヨリ保釋ノ請求アルト否トヲ問ハス檢事ノ意見ヲ聽キ單ニ被告人ヲ其親屬又ハ故舊ニ責付スルヲ得可シ

第十節 豫審終結

第二百二十條

豫審判事ハ被告事件其管轄ニ非ストシ又ハ

他ニ取調ヲ要スルヲナシト思料シタル時ハ豫審終結ノ處分ニ付キ檢事ノ意見ヲ求ムル爲メ一切ノ訴訟書類ヲ送致ス可シ

檢事ハ訴訟書類ニ意見ヲ付シ三日内ニ之ヲ還付ス可シ

豫審

爲シ且被告人勾留ヲ受ケタル時ハ放免ノ言渡ヲ爲ス可シ

一犯罪ノ證憑充分ナラサル時

二被告事件罪ト爲ラサル時

三公訴ノ期滿免除ト爲リタル時

四確定裁判ヲ經タル時

五大赦アリタル時

六法律ニ於テ其罪ヲ全免スル時

本條ノ場合ニ於テ被害者ハ民事裁判所ニ非サレハ要償ノ

訴ヲ爲スヲ得ス

豫審判事免訴ノ言渡ヲ爲スヘキ場合六ア

證憑充分ナラサル時第十一條ニ定メタル期限ヲ經過シテ公訴

ナキ若ナル時第三條第十一條ニ定メタル期限ヲ經過シテ公訴

ノ期滿免除ヲ得タル時第四條ニ同セラレタル時第六條ニ

經タル時第五條ニ因テ其罪ヲ免シタル如ク豫審判事免訴ノ

其事件ノ法律ニ於テ至ラザル全免スルナルカ如ク豫審判事免

十六條法律ニ於テ至ラザル全免スルナルカ如ク豫審判事免

罪證ノ有無ヲ判スルノミナレハ豫審判事私訴ニ付キ裁判ヲ

爲スヲ得ス故ニ豫審判事免訴ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テ被告

得スハ更ニ民事裁判所ニ訴フルニ非サレハ要償ヲ爲スヲ

セラレタル時ハ兼テ放免ノ言渡ヲ爲スヘシ

第二百二十五條 被告事件違警罪ナリト思料シタル時ハ違

警罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲シ且被告人勾留ヲ受ケタル

時ハ釋放ノ言渡ヲ爲ス可シ

檢事ニ於テ被告事件ヲ重罪又ハ

タル後豫審判事ニ於テ其事件違警罪ナルコトヲ發見シタル時

ハ違警罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲シ若シ被告人勾留セラレ

タル時ハ之ヲ釋放スヘシ

第二百二十六條 被告事件輕罪ナリト思料シタル時ハ輕罪

裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲ス可シ

被告人勾留ヲ受ケタル場合ニ於テ罰金ノ刑ニ該ル可キ者